

平成30年6月15日発行 ライセンスメイト 第1巻249号通巻575号(年4回 3月15日、6月15日、9月15日、12月15日発行) 昭和36年11月6日第三種郵便物認可

LICENSE MATE

ライセンスメイト

日台の魂の交流
南京攻略80年

日台の生命の絆



鵝鑾鼻岬とバシー海峡

台湾南端の鵝鑾鼻岬からバシーの海が見える。海は青く澄んで穏やかで、平和な海のように感じる。しかし、千尋の深海に、今もなお20万余柱の同胞の魂魄が眠られていることを、私たちは決して忘れてはならない。

発行所 株式会社 **日本教育開発**

報告集(ライセンスメイト)について

私たちは、ひとりでも多くの国民の皆様「台湾慰霊訪問の旅」を知っていただこうと、団員の皆様の感想文を主体にした報告集として、この季刊誌(第3種郵便物認可)を活用し今日に至っています。それは発送費が助かるからです。(発行所／株式会社日本教育開発)

- ◎この本は訪台時にご接待された台湾の皆様にも御礼として贈呈しますので、恥ずかしい装丁でないといけません。中華民国政府(外交部)にも献本できる資質が求められる所以です。
- ◎国内に目を転じれば、団員の皆様のご縁のある方に配付される時、誇りに思えるものでなければなりません。直近の出来事のみならず、この事業の沿革が一目で理解していただけるものでなくてはなりません。
- ◎読んでみたい雰囲気を漂わすだけでなく内容もしっかりしないとけません。デザイナーの人にも頑張ってもらい、様々な年代、職業、立場、地域の皆様に、すなわち時代に受け入れてもらえるよう工夫と研究を重ねてきたのは、そういう理由からでした。
- ◎英霊の皆様から本当に喜んでもらえるような誌面作り、大東亜戦争に志願し散華された英雄の皆様が、世界史的大事業に参画できた感動を時空を超えて現代の私たち日本人に語りかけることができる媒体、戦死者にあたたくぬくもりのある刊行物、以上のような報告集作りを目指してきた19年でした。
- ◎結成以来、台湾でご縁の出来た方と訪問団に参加実績のある方を合わせますと優に1,000名になりますので、発行部数もそれだけ必要です。
- ◎刷っただけでは読んでいただけません。よって宅配や郵送、相手先が台湾なら航空便も必要です。
- ◎総じてこれら一切の経費を訪問団員の皆様が均等に負担していただいたからこそ、第19次に至るまでこの事業を継続してこれたのだと思います。(原稿料、執筆料は全てボランティアでお願いしてきました。)
- ◎「公的支援のない公的事業」は団員の皆様をはじめとする民間の熱きご支援なしには一日も立ちゆきません。

この雑誌を作ることは英霊への供養の一環でありますし、誌面をご覧いただくことは、現代に生きる私たちが戦没者の皆様と時間と空間と志(こころざし)を共有できる数少ない機会のひとつだと思います。

ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

LICENSE MATE

特集 台湾慰霊訪問団

- 1 報告集(ライセンスメイト)について
- 2 表紙に寄せて
- 3 台湾慰霊訪問団特集に寄せて
- 4 台湾東部・花蓮沖地震復興支援義損金
- 5 台湾訪問の目的
- 9 日台の家族(兄弟)交流のあゆみ
- 13 団長あいさつ
- 15 祭文／台湾訪問の旅 訪台者一覧
- 17 一目でわかる訪問先・交歓先
- 19 訪問先・交歓先一覧(第1次～第19次)
- 23 台湾訪問の旅 帰朝報告
- 26 台湾訪問の旅 紀行文集(抄)
- 37 ご支援戴いた皆様
- 38 知られざる「神蹟の遺跡」
- 39 臺灣日本関係協會・
台日文化經濟協會表敬訪問
- 41 結団式・壮行会～帰朝報告会・新年会
- 43 台湾特別講演会



青く澄んだバシーの海



ご英霊が心静かに安まれることを祈って

表紙に寄せて～鵝鑾鼻岬とバシー海峡

地図を見ると、台湾の南端部は魚の尾鰭のように二つに分かれており、左側の短い方の先端が猫鼻頭(びょうびとう)、右の長い地形の先端が鵝鑾鼻岬(がらんぴーみさき)で、その入り江が南湾となっている。台湾最南端の鵝鑾鼻岬とフィリピン北端バタン諸島の間のバシー海峡は殊に黒潮の流れが強い。大東亜戦争中にはここで潜伏する米潜水艦や爆撃機の攻撃のために、わが国の多くの輸送船が海没して甚大な被害を受け、“魔のバシー海峡”または“輸送船団の墓場”とも呼ばれていた。

わが国の支配下にあったバシー海峡は、昭和19年(1944)になって制空権が後退するに伴い、門司や高雄から南方(特にフィリピン)へ向かう輸送船や護衛艦艇の200隻、また推定25万の将兵がこの海域で撃沈された。沈没の際、救助された者もあったが、多くは千尋の深海に沈んだ。たまたま浮上した遺体は、潮流で地勢の関係から回避して、連日の如くに鵝鑾鼻岬から猫鼻頭にかけての南湾海岸に漂着、多い日は数百体にも達して眼を覆う惨状を呈したという。これらの遺体は現地の台湾の人々の善意によって仮安置あるいは仮土葬された後、軍に引き取られ茶毘に付された。

第19次台湾慰霊訪問の旅「学習資料」より



「台湾慰霊訪問団特集」に寄せて

台北駐福岡經濟文化辦事處

處長 ^{えびす} 戎 ^{よし} 義 ^{とし} 俊

2013年4月1日に台北駐福岡經濟文化辦事處處長として着任し5年がたちました。お陰さまで、日台の交流は大変良好です。2017年、日台の人的往来は646万4,727人、日本が正式な国交を持つ国との間でも646万に達するところはありません。特に、ここ数年、訪日の台湾人は毎年30万人ずつ増えており、2017年の456万5,873人から見ると、実に台湾の人口2,300万の5人に1人が日本へ来たことになり、いかに両国が深くつながっているか、世界一良好な関係にあるかがお分かりいただけると思います。

台湾人の日本旅行の人気はもとより、日本の皆様による台湾旅行も大変な人気です。日本旅行業協会が毎年行なう、ゴールデンウィークと年末年始における日本人の海外旅行先の人気調査によれば、台湾は2015年以降、ずっと1位であります。また、この5年、力を入れてきた修学旅行の分野では、2014年12校1,200人、

2015年19校2,200人、2016年30校5,000人、2017年40校7,000人と順調に数を伸ばし、九州一円の高校にこの意義を説いてきたことが数字に表れはじめました。

2018年1月の最新データ（2016年度分）では、台湾への修学旅行は日本全国で262校・4万1,878名で、校数、人数ともに米国（ハワイ・グアム・サイパンを含む）を抜いて第1位であると発表され、若い世代の交流が着実に進んでいることを実感しています。もちろん、経済・貿易・音楽・芸術・学術・スポーツ・ホームステイなどあらゆる分野の交流も大変スムーズです。両国の人的往来は、東京オリンピックが開催される2020年には700万人を超えると思われる。

このように良好な関係は一朝一夕に出来るものではありません。小菅団長率いる「日華(台)親善友好慰霊訪問団」のように、19年前から毎年欠かさず台湾を訪問し

親善交流を積み重ね信頼関係を真摯に築いてこられたことが実を結んでいるものと存じ、皆様に敬意と感謝の意を表します。「継続は力なり」と言うように、19年連続の台湾訪問は日台両国関係の大きな支えとなったと言っても過言ではありません。また、台湾での交流のみならず、日頃から我が台湾への揺るぎないご支持をいただき、紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

私は7月15日に定年退官を迎えます。総領事としての5年間は思ったことの何分の一しか出来なかったかも知れませんが、日台関係に新しい種をまき、芽が出かかるところまで来ることが出来たことは、ひとえに九州の皆様のおかげであると感謝しております。これまで得られた皆様との縁(えにし)を大切にしながら、九州と台湾との関係発展にお役に立てるよう今後も微力ながら貢献できればと思っています。ありがとうございました。

台湾東部・花蓮沖を震源とする地震被害再建支援 義捐金を戴いた皆様に心から御礼申し上げます。

去る平成30年2月7日未明、台湾東部・花蓮沖を震源とするマグニチュード強の地震が発生しました。震源に近い花蓮市では複数のビルが倒壊し、多数の死者や行方不明者が出るなど甚大な被害が起きました。

花蓮市は慰霊訪問団にとっては大変重要な地です。台北駐福岡経済文化辦事處総領事であられた周石穎氏のご自宅のあるところで、慰霊訪問団にとっても縁が深く、平成11年3月の第1次訪問の地でもあります。いわば私たちにとって花蓮市は領台時代の面影を遺して下さっている大切な故郷です。その郷里ともいえる被災地の惨状に胸を痛み、復興・再建を切に願い、広く義捐金の募集を呼びかけましたところ多くの皆様にご支援・ご協力を戴き誠に有り難うございました。

皆様方よりお預かりいたしました義捐金ならびにご協力戴きました皆様方の芳名簿を台北駐福岡経済文化辦事處を通じて花蓮市政府へお届けいたします。

義捐金 芳名簿

日華(台)親善友好慰霊訪問団 団長
小菅玄三郎 福岡県福岡市南区

日華(台)親善友好慰霊訪問団 顧問
藤田達男 神奈川県川崎市麻生区

九州不動産専門学院グループ同窓会「九栄会」会長
松尾嘉三 福岡県春日市西区

日華(台)親善友好慰霊訪問団 理事
原田泰宏 福岡県福岡市南区

岩屋城史の会 代表主宰
柴崎一郎 福岡県筑紫野市

福岡教育連盟 執行委員長
藤野英二 福岡県福岡市東区

石井和則 福岡県福岡市東区
岡田敏江 福岡県福岡市中央区
木下 修 福岡県大野城市
佐護美和子 福岡県福岡市早良区
白水キミ子 福岡県福岡市中央区
関口泰子 神奈川県大和市
津田啓輔 福岡県福岡市中央区
中村深雪 福岡県糸島市
永留照子 福岡県福岡市中央区
堀 由香里 福岡県田川郡添田町
湯下雅俊 福岡県北九州市小倉南区

石嶋 浩 福岡県福岡市南区
影山正信 福岡県福岡市早良区
坂瀬秀之 福岡県遠賀郡岡垣町
柴崎一郎 福岡県筑紫野市
角 洋一郎 福岡県福岡市西区
高橋幸久 福岡県福岡市博多区
中村邦明 福岡県糸島市
中山 茂 福岡県北九州市八幡西区
福田章枝 福岡県宗像市
山添裕之 熊本県熊本市北区

以上 26名

義捐金総額 一金、300,000円也

日華(台)親善友好慰霊訪問団
団長小菅玄三郎

旅の目的

1



「大東亜戦争で散華された 台湾人同胞3万3千余柱の 英霊顕彰と慰霊祭参列」

- | | |
|-----------|---|
| 11月22日(水) | 樹林／海明禪寺・富田直亮將軍墓所(写真①②) |
| 11月23日(木) | 嘉義／富安宮(写真③)
台南／飛虎將軍廟(写真④⑤)
高雄／保安堂(写真⑥) |
| 11月24日(金) | 恆春／鵝鑾鼻岬(写真⑦)
恆春／潮音寺(写真⑧⑨)
屏東／東龍宮(写真⑩) |
| 11月25日(土) | 台中／宝覺寺(写真⑪⑫)
イ.日本人墓地(日本人遺骨安置所)
ロ.英魂觀音亭と「靈安故郷」の慰霊碑 |
| 11月26日(日) | 新竹／濟化宮(写真⑬⑭)
士林／芝山公園(写真⑮⑯)
イ.六士先生墓所
ロ.学務官僚遭難之碑 |



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



⑩



⑪



⑫



⑬



⑭



⑮



⑯



「領台時代の魂を継承する 現地台湾人との家族交流・兄弟交流」

- 11月22日(水) 台北／台湾日本関係協会(張淑玲秘書長)主催歓迎夕食会／上海鄉村宴會館(写真①②)
- 11月23日(木) 鹽水／八角樓見学(写真③④)
鹽水／鹽水國民小學(蘆彦賓校長)表敬訪問(写真⑤⑥)
高雄／黃明山・葉美麗ご夫妻主催歓迎夕食会／南北樓(写真⑦⑧)
- 11月24日(金) 台中／慰靈団主催交歓夕食会／仙園海鮮會館(写真⑨⑩)
- 11月25日(土) 台中／台湾台日海交会(周良仁会長)主催歓迎昼食会／香蕉新樂園餐廳(写真⑪⑫)
- 11月26日(日) 台北／黃文雄先生主催歓迎夕食会／紫都(写真⑬⑭)
台北／台日文化經濟協會(黃天麟会長)主催歓迎昼食会／海霸王(写真⑮⑯)



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



⑩



⑪



⑫



⑬



⑭



⑮



⑯

日台の家族(兄弟)交流のあゆみ

平成11年 3月 6日 第1次訪問旅行(3.6~3.9、23名)
※「結団式・解団式」含む...1
5月 15日 ライセンスメイトにて連載開始...2
11月 25日 慰霊祭参加(台中・宝覺寺、11.24~11.26、2名)...3
平成12年 11月 23日 第2次訪問旅行(11.23~11.26、17名)
※「結団式・解団式」含む...4
読売新聞に一面広告掲載...5
平成13年 5月 28日 福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣1名)...6
6月 5日 第3次訪問結団式・壮行会(平和樓本店60名)...7
10月 13日 二の丸会全国農業土木技術連盟九州業界連盟研修会
11月 8日 「世界一の親日国・台湾の話」講話:小菅玄三郎 随行:古川
(ホテル南風樓)...8
11月 23日 第3次訪問旅行(11.23~11.26、38名)...9
12月 22日 第3次訪問結団式・報告会(平和樓本店50名)...10
平成14年 4月 1日 訪問団ホームページ開設...11
6月 6日 福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣1名)...12
6月 8日 許國雄先生告別式参列(高雄・徳生長老教会、6.7~6.9、1
名)...13
9月 10日 産経新聞に見聞広告掲載...14
10月 21日 全国の学校(8,443校)にパンフレットを郵送し、台湾への修
学旅行先選定を呼びかける
※全国の高等学校5,054校、県内の保育園から大学まで
3,389校...15
11月 2日 第4次訪問結団式・壮行会(平和樓本店73名)...16
11月 6日 台湾中日海交協会(胡順来会長以下16名)歓迎晩餐会(台湾
18名)...17
11月 23日 第4次訪問旅行(11.23~11.26、38名)...18
平成15年 1月 24日 第4次訪問結団式・報告会(平和樓本店48名)...19
4月 26日 台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加(八仙閣1名)...
20
6月 6日 福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣1名)...21
6月 7日 第1回台湾特別講演会・懇親会(アーバン・オフィス天神・講
演会134名/懇親会36名)
山口秀範先生(国民文化研究会事務局長)「台湾に根づく日
本精神一六士先生を中心に」...22
8月 6日 福岡市中央倫理法人会 例会「海の彼方のニッポンを訪ね
て」卓話:小菅玄三郎 随行:古川(KKRホテル博多)...23
11月 8日 第5次訪問結団式・壮行会(平和樓本店56名)...24
11月 23日 第5次訪問旅行(11.23~11.26、23名)...25
平成16年 1月 24日 第5次訪問結団式・報告会(平和樓本店35名)...26
2月 22日 第1回台湾シリーズ放送(FM-MiMi日曜討論、2.22~3.28、
6回)...27
4月 29日 台中市日本文化協會(鍾子桓氏以下3名)来訪...28
5月 23日 台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加(八仙閣1名)...
29
6月 5日 第2回台湾特別講演会・懇親会(講演会 アーバン・オフィス
天神83名/懇親会 花万葉54名)
張国興先生(久留米大学法学部教授)「台湾の現状一総統選
挙を中心に」...30
6月 9日 福岡日華親善協会 定時総会参加(平和樓本店1名)...31
6月 20日 沈・呉ご夫妻来訪...32
9月 9日 台湾福祉実習団(陳陳氏以下8名)来訪...33
11月 12日 福岡日華親善協会孫中山先生並びに蔣介石先生生誕
記念祝宴参加(平和樓本店1名)...34
11月 22日 第6次訪問結団式・壮行会(アーバン・オフィス天神6名)...
35
11月 23日 第6次訪問旅行(11.23~11.26、8名)...36
12月 26日 第2回台湾シリーズ放送(FM-MiMi日曜討論、12.26~
H.17.1.2、2回)...37
平成17年 1月 3日 第3回台湾シリーズ放送(FM-MiMi日曜討論、年末年始篇第
4弾、1.2、1回)...38
1月 3日 第1回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護国神社/西鉄
グランドホテル4名)...39
1月 22日 第6次訪問結団式・報告会(平和樓本店30名)...40
6月 4日 第3回台湾特別講演会・懇親会(講演会 テルラホール100
名/懇親会 チャタムダイニング70名)
黄文雄先生(文明史家)「反日教育を扇る中国の大罪一中国
が反日・仇日に転じた本当の理由」...41
6月 10日 福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣1名)...42
10月 22日 第7次訪問結団式・壮行会(平和樓本店51名)...43
11月 5日 何・陳ご夫妻歓迎晩餐会(平和樓本店16名)...44
11月 14日 福岡日華親善協会 孫中山先生並びに蔣介石先生生誕
記念祝宴参加(八仙閣15名)...45
11月 23日 第7次訪問旅行(11.23~11.26、20名)...46
12月 11日 台湾在日福岡留学生会 忘年会参加(平和樓本店1名)...47
平成18年 1月 3日 第2回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護国神社/西鉄
グランドホテル4名)...48
1月 8日 第4回台湾シリーズ放送(FM-MiMi日曜討論、1.8、1回)...

49
平成18年 1月 28日 第7次訪問結団式・報告会(テルラホール38名)
※「森晴治顧問を偲ぶ会」兼ねる...50
3月 22日 福岡ライオンズクラブ 例会「今、日本がおかしい~現代に生
きる教育勸語・軍人勸語」卓話:小菅玄三郎 随行:川添(ホ
テル日航福岡)...51
5月 14日 台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会(八仙閣1名)...52
5月 15日 ライセンスメイト『台湾慰霊訪問団特集』発行...53
6月 3日 第4回台湾特別講演会・懇親会(講演会 アーバン・オフィス
天神 156名/懇親会 テルラホール67名)
黄文雄先生(文明史家)「台湾・中国が衝突する日~これから
の台・中・日・米関係の徹底分析」...54
6月 7日 福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣1名)...55
10月 1日 第5回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、特別篇第5弾、
10.1、1回)...56
10月 21日 旅程説明会(アーバン・オフィス天神26名)
第8次訪問結団式・壮行会(テルラホール70名)...56
11月 13日 福岡日華親善協会 孫中山先生並びに蔣介石先生生誕記念
祝宴参加(八仙閣1名)...58
11月 20日 役員・班長会(アーバン・オフィス天神6名)...59
11月 23日 第8次訪問旅行(11.23~11.26、35名)...60
平成19年 1月 3日 第3回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護国神社/西鉄
グランドホテル4名)...61
1月 7日 第6回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、1.7、1回)...62
1月 27日 第8次訪問結団式・報告会(平和樓本店68名)...63
3月 15日 ライセンスメイト『台湾慰霊訪問団特集』発行...64
5月 20日 台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加(八仙閣2名)...
65
6月 2日 第5回台湾特別講演会・懇親会(講演会 エルガーラホール
218名/懇親会 てら岡53名)
黄文雄先生(文明史家)「増大する覇権主義中国の軍事的脅
威一日台はいかに対応すべきか?」...66
6月 13日 福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣2名)...67
10月 5日 台湾双十節式典参加(ホテルオークラ10名)...68
10月 18日 REPの会例会「海の彼方のニッポンを訪ねて」
卓話:小菅玄三郎 随行:林・吉村(パナサロン)...69
10月 27日 旅程説明会(平和樓本店19名)
第9次訪問結団式・壮行会(平和樓本店49名)...70
11月 23日 第9次訪問旅行(11.23~11.26、25名)...71
12月 22日 台湾在日福岡留学生会 忘年会参加(平和樓本店3名)...72
平成20年 1月 3日 第4回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護国神社/西鉄
グランドホテル4名)...73
1月 25日 九州建設機械器具リース業協会賀詞交歓会「海の彼方の
ニッポンを訪ねて」
講話:小菅玄三郎 随行:黄(八仙閣)...74
1月 26日 第9次訪問結団式・報告会(平和樓本店51名)...75
3月 9日 第6回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、3.9~4.13、6
回)...76
3月 15日 ライセンスメイト『台湾慰霊訪問団特集』発行...77
6月 1日 台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会(八仙閣1名)...78
6月 8日 第6回台湾特別講演会・懇親会(福岡ガーデンパレス 講演
会123名/懇親会63名)
黄文雄先生(文明史家)「日本人の道と精神(こころ)」
清水馨八郎先生(千葉大学名誉教授)「日本文化の本質を知
ろう~新「教育勸語」のすめ」...79
6月 17日 福岡日華親善協会 定時総会参加(全日空ホテル1名)...80
9月 3日 台北駐福岡經濟文化辦事處 周碩穎處長主催懇親会(平和
樓本店7名)...81
10月 9日 台湾双十節式典参加(ホテルオークラ15名)...82
10月 25日 旅程説明会(平和樓本店18名)
第10次訪問結団式・壮行会(平和樓本店48名)
※「東京支部・台湾支部設立」兼ねる...83
11月 22日 第10次訪問旅行(11.22~11.26、31名)
(A班11.22~26、19名、B班11.23~26、12名)...84
12月 14日 台湾在日福岡留学生会 忘年会参加(平和樓本店2名)...85
平成21年 1月 3日 第5回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護国神社/松風4
名)...86
1月 24日 第10次訪問結団式・報告会(平和樓本店64名)...87
2月 22日 第8回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、2.22~3.29、
6回)...88
3月 9日 台北駐福岡經濟文化辦事處 周碩穎處長主催懇親会(平和
樓本店8名)...89
3月 15日 ライセンスメイト『台湾慰霊訪問団特集』発行...90
5月 24日 台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加(平和樓本店3
名)...91
6月 6日 台湾支部長(黄・葉ご夫妻)歓迎晩餐会(花万葉10名)...92
6月 7日 第7回台湾特別講演会・懇親会(福岡ガーデンパレス 講演
会170名/懇親会69名)

		黄文雄先生(文明史家)「台湾と日米中の現在と未来—台湾と中国の最終戦争は避けられるのか?」柳原憲一先生(西日本台湾学友会会長)「江見政治と竹東大圳—今、甦る台湾水力発電の父」...93	平成23年	7月	3日	134 中華民國建国100年「聖火リレー」福岡到着記念撮影会参加(福岡市南公園2名)...135	
平成21年	6月	14日	産経新聞で「NHKは台湾人ならびに三万三千余柱の元日本兵台湾人戦没者に謝罪を!」意見広告掲載...94		7月	6日	あすなる会 例会「台湾はなぜ世界一の親日国なのか〜日華(台)親善友好慰霊訪問団団長12年の体験から」卓話:小菅玄三郎 随 行:池田・黄・五郎丸・高山(ハーベストビル会議室)...136
			李登輝元総統お出迎え(福岡空港43名)...95		7月	24日	産経新聞で「真実で尊い行動は必ず継続される」意見広告掲載...137
			李登輝元総統お見送り(福岡空港26名)...96		8月	21日	産経新聞で「台湾との絆の強化は日本再生への道」意見広告掲載...138
			産経新聞で第2回目の「NHKは台湾人ならびに三万三千余柱の元日本兵台湾人戦没者に謝罪を!」意見広告掲載...97		9月	13日	福岡県立嘉穂高等学校修学旅行事前学習「台湾修学旅行〜台湾はどういう国なのか」講話:黄楷 随 行:池田(視聴覚教室)...139
10月	31日	産経新聞で第3回目の「NHKは台湾人ならびに三万三千余柱の元日本兵台湾人戦没者に謝罪を!」意見広告掲載...98		9月	29日	産経新聞で「魂の奥の不思議なふれあいを感じる唯一の国・台湾」意見広告掲載...140 葵	
		旅程説明会(平和樓本店20名) 第11次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店56名)...99		10月	7日	台湾双十節式典参加(ホテルオークラ15名)...141	
		産経新聞で「台湾の国連専門機関参加」支援広告掲載...100		10月	17日	産経新聞で「台湾での新発見、そして再発見」意見広告掲載...142	
		第11次訪問旅行(11.22〜11.26.30名)...101		10月	22日	旅程説明会(平和樓本店26名) 第13次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店67名)...143	
11月	21日	台湾在日福岡留学生会 忘年会参加(八仙閣3名)...102		11月	20日	台湾在日福岡留学生会忘年会参加(平和樓本店2名)...144	
		産経新聞で「原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭で奏上された祭文」意見広告掲載...103		11月	21日	産経新聞で「日本人は真の親日国家である台湾を見誤ることなかれ」意見広告掲載...145	
		第6回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護国神社/松風4名)...104		11月	21日	台北駐福岡経済文化辦事處 曾念祖處長主催懇親会(鴻臚6名)...146	
		第9回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、年末年始篇第9弾、1.3.1回)...105		11月	22日	第13次訪問旅行(11.22〜11.26.45名)(A班11.22〜26.38名、B班11.24〜26.7名)...147	
1月	3日	第11次訪問団結団式・報告会(平和樓本店61名)...106		12月	25日	産経新聞で「日本語世代の方はかけがえのない日本の宝です」意見広告掲載...148	
		日本会議福岡中央支部 新春祝賀会「日台の交流—11年の活動を振り返って」 講話:小菅玄三郎 随 行:黄・五郎丸(平和樓本店)...107	平成24年	1月	3日	第8回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護国神社/松風4名)...149	
		産経新聞で「慰霊を回復して人は国民になる」意見広告掲載...108		1月	6日	中華民國建国100年祝賀式典参加(ホテルオークラ1名)...150	
		第10回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、3.7〜4.11.6回)...109		1月	19日	台北駐福岡経済文化辦事處 曾念祖處長謝恩新年会(千羽鶴6名)...151	
3月	7日	中華民國(台湾)領事着任をお祝いする会(稚加米、4名)...110		1月	21日	第13次訪問団結団式・報告会(平和樓本店65名)...152	
		林溪和先生告別式参列(台中・三一基督長老教会、3.13〜3.14.2名)...111		1月	26日	産経新聞で「日本人のアイデンティティを取り戻す巡礼の旅」意見広告掲載...153	
		ライセンスメイト「台湾慰霊訪問団特集」発行...112		2月	22日	産経新聞で「この度の総統選挙のご当選、誠にめでとございます。心よりお祝い申し上げます。」意見広告掲載...154	
		産経新聞で「明石元二郎台湾総督に対する福岡市教育委員会の態度には愛国心が感じられません」意見広告掲載...113		3月	25日	産経新聞で「原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭で奏上された祭文」意見広告掲載...155	
5月	16日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加(平和樓本店2名)...114		4月	1日	第12回台湾シリーズ放送(スタジオ日本日曜討論、4.1〜5.6.6回)...156	
		第8回台湾特別講演会・懇親会(福岡ガーデンパレス 講演会172名/懇親会58名) 明石元紹先生(明石元二郎令孫・画家)黄文雄先生(文明史家) 「郷土福岡が生んだ世界的英雄・偉人—明石元二郎台湾総督の生涯」...115		4月	29日	産経新聞で「第10回台湾特別講演会」意見広告掲載...157	
		台北駐福岡経済文化辦事處 周碩頤處長送別会(団長宅12名)...116		5月	13日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加(平和樓本店2名)...158	
		産経新聞で「日台の生命の絆死守せむと吾日本の一角に起つ」意見広告掲載...117		5月	16日	台湾総統就任記念茶話会参加(平和樓本店3名)...159	
6月	27日	日本会議福岡中央支部 西部地区懇談会「日本と台湾は運命共同体—台湾防衛は英霊との約束」 講話:小菅玄三郎 随 行:原田・池田・黄(アーバン・オフィス天神)...118		6月	1日	産経新聞で「『恥ずかしい』と『感謝』の訪問」意見広告掲載...160	
		台湾双十節式典参加(ホテルオークラ12名)...119		6月	2日	台湾支部長(黄・葉ご夫妻)歓迎晩餐会(花万葉13名)...161	
		台北駐福岡経済文化辦事處 曾念祖處長歓迎会(松幸26名)...120		6月	3日	第10回台湾特別講演会・懇親会(福岡ガーデンパレス 講演会167名/懇親会79名)基調講演:黄文雄先生(文明史家)「日本と台湾の過去・現在・未来—私たちが目指すべき日台の関係」 パネルディスカッション:黄文雄先生(文明史家)・施光恒先生(九州大学大学院准教授)・柳原憲一先生(西日本台湾学友会前会長)「東日本大震災から見た日台の生命の絆〜台湾国民は何故世界一のご支援をして下さったのか」...162	
		旅程説明会(平和樓本店21名) 第12次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店63名)...121		6月	7日	福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣1名)...163	
11月	21日	台湾在日福岡留学生会忘年会参加(平和樓本店2名)...122		6月	15日	ライセンスメイト『台湾慰霊訪問団特集』発行...164	
		第12次訪問旅行(11.22〜11.26.46名)(A班11.22〜26.35名、B班11.24〜26.11名)...123		7月	15日	産経新聞で「東日本大震災から見た日台の生命の絆(1)」意見広告掲載...165	
		第7回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護国神社/西鉄グランドホテル4名)...124		7月	16日	産経新聞で「東日本大震災から見た日台の生命の絆(2)」意見広告掲載...166	
		第12次訪問団結団式・報告会(平和樓本店65名)...125		10月	5日	台湾双十節式典参加(ホテルオークラ5名) ※主催者より直接案内送付のため、今回から反省会参加者とする...167	
平成23年	1月	3日	福岡西ライオンズクラブ 例会「教育勅語・軍人勅諭」卓話:小菅玄三郎 随 行:高山(西鉄グランドホテル)...126		10月	6日	台湾支部事務局長(黄楷榮)婚約式参列(高雄・饅巴黎大飯店、10.6〜10.8.2名)...168
			台北駐那覇経済文化辦事處 粘信士處長表敬訪問(3.15〜3.16.4名)...127		10月	13日	旅程説明会(平和樓本店18名) 第14次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店69名)...169
			第11回台湾シリーズ放送(スタジオ日本 日曜討論、4.3〜5.8.6回)...128		10月	26日	台湾支部事務局長(黄楷榮)結婚式参列(基隆・豪鼎飯店、10.26〜10.28.2名)...170
			産経新聞で「原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭で奏上された祭文」意見広告掲載...129		11月	8日	中華民國(台湾)領事着任をお祝いする会(江藤家、4名)...171
5月	28日	産経新聞で「日本の為に従軍して戦死された台湾人の慰霊に参加するのは日本人の義務である」意見広告掲載...130		11月	18日	台湾在日福岡留学生会 忘年会参加(平和樓本店2名)...172	
		第9回台湾特別講演会・懇親会(福岡ガーデンパレス 講演会159名/懇親会71名) 黄文雄先生(文明史家)「中国が沖縄を獲る日—中国の「千船保釣」を打ち砕こう!」...131		11月	22日	第14次訪問旅行(11.22〜11.26.38名)(A班11.22〜26.32名、B班11.24〜26.6名)...173	
		台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加(平和樓本店2名)...132		11月	23日	第13回台湾シリーズ放送(スタジオ日本 日曜討論、年末年始篇第12弾、12.23.1回)...174	
		ライセンスメイト「台湾慰霊訪問団特集」発行...133					
6月	24日	産経新聞で「奉納した龍柱と銘板に感動」意見広告掲載...					

日台の家族(兄弟) 交流のあゆみ

平成24年	12月 3日	第9回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護國神社／松風4名) ...175			たち原日本人は大切なものを忘れてしまった」：施光恒先生(九州大学大学院准教授)「台湾の中のニッポン～日本人が取り戻すべき心とは」・柳原憲一先生(西日本台湾学友会前会長)「台湾人戦犯死没者の遺書について」...217	
平成25年	1月26日	第14次訪問団解団式・報告会(平和樓本店73名) ...176				
	1月23日	台北駐福岡經濟文化辦事處 曾念祖處長送別会(千羽鶴13名) ...177		平成26年	6月15日	ライセンスメイト「台湾慰霊訪問団特集」発行...218
	2月24日	第13回台湾シリーズ放送(スタジオ日本 日曜討論、2.24～3.31、6回) ...178		6月17日	福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣 1名) ...219	
	2月 6日	福岡日華親善協会 台北駐日經濟文化代表處 沈斯淳代表歓迎宴参加(ホテル日航福岡1名) ...179		6月21日	第12回台湾特別講演会 第4回実行委員会・慰労会(アーバン・オフィス天神 26名／花万葉 30名) ...220	
	3月20日	日台交流教育会 創立40周年記念懇親会参加(アルカディア市ヶ谷1名) ...180		8月16日	胡順来先生告别式参列(台中・篤行基督長老教会、8.15～8.17、2名) ...221	
	4月26日	第11回台湾特別講演会 第1回実行委員会(アーバン・オフィス天神15名) ...181		10月 7日	台湾双十節式典参加(グランドハイアット 6名) ...222	
	5月23日	第11回台湾特別講演会 第2回実行委員会(アーバン・オフィス天神17名) ...182		10月11日	旅程説明会(平和樓本店 22名) 第16次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店 71名) ...223	
	5月28日	第11回台湾特別講演会 第3回実行委員会(アーバン・オフィス天神 20名) ...183		10月12日	台日文化交流会 桜井真先生講演会参加(福岡国際ホール 1名) ...224	
	5月 1日	台湾支部事務局(李・黄ご夫妻)歓迎晩餐会(花万葉 10名) ...184		11月14日	台北駐福岡經濟文化辦事處主催 映画「KANO」試写会(T・ジョイ博多 8名) ...225	
	6月 2日	第11回台湾特別講演会・懇親会(福岡ガーデンパレス 講演会195名／懇親会134名) 基調講演：黄文雄先生(文史作家)「思想的背景から見た日台の魂の交流～日本人の生と死を見つめながら魂の深層を探る」／パネルディスカッション：黄文雄先生(文史作家)・施光恒先生(九州大学大学院准教授)・柳原憲一先生(西日本台湾学友会前会長)「今後の日本と台湾の真の交流について～私たちがかめざすべき日台の関係」 ...185		11月22日	第16次訪問旅行(11.22～11.26、48名)(A班11.22～26 45名、B班11.24～26 3名) ...226	
	6月 3日	台湾支部事務局(李・黄ご夫妻)美祢市表敬訪問 ...186		11月24日	第16次訪問団高雄市政府(李永得副市长、張乃千社会局長)表敬訪問※高雄市爆発事故復興支援義援金(619000円、台湾元3000元／122名) ...227	
	6月 4日	台湾支部事務局(李・黄ご夫妻)山口市表敬訪問 ...187		12月 6日	台湾在日福岡留学生会忘年会参加(八仙閣 5名) ...228	
	6月 4日	台湾支部事務局(李・黄ご夫妻)慰労会(団長宅 11名) ...188	平成27年	1月13日	第11回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護國神社／千羽鶴 4名) ...230	
	6月15日	第11回台湾特別講演会 第4回実行委員会・慰労会(アーバン・オフィス天神 22名／木曾路21名) ...189		1月24日	第16次訪問団解団式・報告会(平和樓本店 82名) ...231	
	6月15日	ライセンスメイト「台湾慰霊訪問団特集」発行 ...190		2月22日	第16回台湾シリーズ放送(スタジオ日本 日曜討論、2.22～3.29、6回) ...232	
	6月16日	ニュー有楽会お別れ総会参加(平和樓本店 1名) ...191		3月25日	第13回台湾特別講演会 第1回実行委員会(アーバン・オフィス天神 22名／懇親会13名) ...233	
	6月21日	台北駐福岡經濟文化辦事處 戎義俊處長歓迎会(千羽鶴18名) ...192		4月13日	山口県美祢市総合観光部(藤沢和昭部長以下7名) 来訪...234	
	6月29日	林徳華先生告别式参列(台中・林家宅、6.28～6.30、3名) ...193		4月22日	第13回台湾特別講演会 第2回実行委員会(アーバン・オフィス天神 17名／懇親会7名) ...235	
	6月29日	御創立記念日献詠披露式出席(靖國神社、6.29～6.30、1名) ...194		4月26日	台湾在日福岡留学生会新入生歓迎会参加(八仙閣 3名) ...236	
	6月30日	台湾在日福岡留学生会新入生歓迎会参加(平和樓本店 2名) ...195		5月20日	第13回台湾特別講演会 第3回実行委員会(アーバン・オフィス天神 23名／懇親会 9名) ...237	
	7月18日	台北駐福岡經濟文化辦事處 戎義俊處長主催懇親会(Sol 9名) ...196		5月23日	産経新聞に一面広告掲載 ...238	
	10月 4日	台湾双十節式典参加(グランドハイアット 12名) ...197		6月10日	第13回台湾特別講演会 実行委員会幹事会(アーバン・オフィス天神 6名) ...239	
	10月12日	旅程説明会(平和樓本店 9名) 第15次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店 69名) ...198		6月15日	ライセンスメイト「台湾慰霊訪問団特集」発行 ...240	
	10月20日	台日文化交流会 許世楷先生講演会参加(西南学院大学コミュニティセンター 1名) ...199		6月16日	沖縄県中部倫理法人会 例会「海の彼方のニッポンを訪ねて」卓話：小菅玄三郎 随行：なし(プラザハウス) ...241	
	11月 1日	中華民国(台湾)福岡領事着任をお祝いする会(花万 6名) ...200		6月16日	台北駐那覇經濟文化辦事處 蘇啓誠處長表敬訪問(6.15～6.16 2名) ...242	
	11月10日	台湾在日福岡留学生会忘年会参加(平和樓本店 5名) ...201		6月17日	第13回台湾特別講演会 第4回実行委員会(アーバン・オフィス天神 25名／懇親会 8名) ...243	
	11月22日	第15次訪問旅行(11.22～11.26、32名)(A班11.22～26 28名、B班11.24～26 4名) ...202		6月21日	第13回台湾特別講演会・交流会(西鉄グランドホテル 講演会338名／交流会141名) 基調講演：黄文雄先生(文史作家)「太陽花學生運動 統一地方選 そして総統選へー台湾の若者が示した勇氣と献身」／パネルディスカッション「終戦70年と私たちの課題ー「KANO」を制作した台湾の言語空間」：黄文雄先生(文史作家)「ネット世代に活路を見出す台湾の言語空間ー華夷秩序からの脱却」：施光恒先生(九州大学大学院准教授)「想像力の回復に向けて」：柳原憲一先生(西日本台湾学友会前会長)「領台初期の台湾語教育とその影響」 ...244	
	12月29日	高雄市鳳山紅毛港保安堂座式典参加(12.28～12.30 3名) ...203		7月11日	産経新聞に一面広告掲載(「福岡宣言」発表) ...245	
平成26年	1月 3日	第10回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護國神社／松風4名) ...204		7月11日	第13回台湾特別講演会 第5回実行委員会・慰労会(西鉄グランドホテル 23名) ...246	
	1月25日	台北駐福岡經濟文化辦事處 戎義俊處長主催送別会(處長公邸2名) ...205		8月 8日	台日文化交流会 排湾古謡コンサート(西南学院大学コミュニティセンター 1名) ...247	
	1月25日	第15次訪問団解団式・報告会(平和樓本店63名) ...206		9月14日	保安堂靖國参拝団(洪海上氏以下32名)お出迎え(靖國神社 11名／明治神宮8名) ...248	
	2月23日	第15回台湾シリーズ放送(スタジオ日本 日曜討論、2.23～3.30、6回) ...207		10月 9日	台湾双十節式典参加(ホテルオークラ 10名) ...249	
	3月23日	東龍宮(石羅界堂守以下6名)歓迎晩餐会(千羽鶴8名) ...208		10月10日	旅程説明会(平和樓本店 16名) 第17次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店 93名) ※「沖縄支部設立」兼ねる 掲載記事：産経新聞10月11日、フクニチ11月27日 ...250	
	3月26日	第12回台湾特別講演会 第1回実行委員会(アーバン・オフィス天神17名) ...209		10月31日	台日文化交流協会 桜井真先生講演会参加(福岡市市民福祉プラザ 2名) ...251	
	3月27日	中華民国(台湾)領事着任をお祝いする会(花万3名) ...210		11月18日	日本道経会福岡支部 例会「海の彼方のニッポンを訪ねてーなぜいま「軍人勸諭」か」 卓話：小菅玄三郎 随行：なし(八仙閣 1名) ...252	
	3月29日	富安宮新廟落成慶法要参列(嘉義・富安宮1名) ...211		11月22日	第17次訪問旅行(11.22～11.26、32名)(A班11.22～26 30名、B班11.24～26 2名) ...253	
	4月22日	第12回台湾特別講演会 第2回実行委員会(アーバン・オフィス天神23名) ...212		12月13日	台湾在日福岡留学生会 忘年会参加(ヒルトンシーホーク 3名) ...254	
	4月27日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加(八仙閣3名) ...213		12月14日	中華民国(台湾)領事着任をお祝いする会(松風 4名) ...255	
	5月18日	産経新聞に「第12回台湾特別講演会」全面広告掲載 ...214		12月25日	台北駐福岡經濟文化辦事處 戎義俊處長主催忘年会(夕	
	5月28日	第12回台湾特別講演会 第3回実行委員会(アーバン・オフィス天神 25名) ...215				

平成27年12月27日	ワーベントハウス 2名)...256 第17回台湾シリーズ放送(スタジオ日本日曜討論、12.27、1回)...257	平成29年 4月22日	第15回台湾特別講演会 第3回実行委員会(アーバン・オフィス天神 23名/懇親会 8名)...288
平成28年 1月 5日	第12回台湾人留学生初詣おせち会(水鏡天満宮/花万葉 10名)...258	4月28日	東龍宮増建拜庭完竣暨田中將軍記念館啓用祭典 参列(屏東・東龍宮、4.27~4.30 1名)...289
1月23日	第17次訪問団解団式・報告会(平和樓本店 72名) ※「永田昌巳顧問を偲ぶ会」兼ねる 掲載記事:産経新聞1月24日、フクニチ住宅新聞2月5日、日本時事評論2月19日...259	5月14日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会(アークホテルロイヤル福岡天神 2名)...290
2月17日	第14回台湾特別講演会 第1回実行委員会(アーバン・オフィス天神 9名)...260	5月18日	中華民国(台湾)領事着任をお祝いする会(桃林3名)...291
2月21日	第16回台湾シリーズ放送(スタジオ日本 日曜討論、2.21~3.27、6回)...261	5月27日	第15回台湾特別講演会 第4回実行委員会(アーバン・オフィス天神 19名/懇親会 9名)...292
3月16日	第14回台湾特別講演会 第2回実行委員会(アーバン・オフィス天神 18名/懇親会 11名)...262	5月28日	産経新聞・東海新報に一面広告掲載...293
4月 7日	山口県美祿市総合観光部(古川和則所長以下2名)来訪...263	6月 7日	第15回台湾特別講演会 第5回実行委員会(アーバン・オフィス天神 23名)...294
4月23日	第14回台湾特別講演会 第3回実行委員会(アーバン・オフィス天神 16名/懇親会 8名)...264	6月14日	第15回台湾特別講演会 実行委員会幹事会(アーバン・オフィス天神 11名)...295
4月26日	黄明山支部長台南市政府(鄭俊傑社会局秘書室主任)表敬訪問※台南市地震被害復興支援義捐金(363000円/88名)...265	6月15日	ライセンスメイト『台湾慰霊訪問団特集』発行...296
5月14日	台湾在日福岡留学生会新入生歓迎会(八仙閣2名)...266	6月18日	独自ドメインによる「日華(台)親善友好慰霊訪問団(Nippon-taiwan.org)」のホームページが完成...297
5月18日	第14回台湾特別講演会 第4回実行委員会(アーバン・オフィス天神 19名/懇親会 10名)...267	6月18日	第15回台湾特別講演会・交流会(ソラリア西鉄ホテル 講演会289名/交流会165名) 基調講演:黄文雄先生(文史史家/和漢両樓/ノンフィクション作家)「『一つの中国』の否定とグローバリズムの挫折〜日本は台湾との関係をいかに構築すべきか/パネルディスカッション「強力な台湾アイデンティティを持つ天然独〜私たちの代でつらう、世界も羨む二国間関係を」:黄文雄先生(文史史家/和漢両樓/ノンフィクション作家)「台湾の新(新)人類」天然独の時代社会条件を探る」・施光恒先生(九州大学大学院准教授)「台湾の新しい国づくりに日本はどう応えるべきか〜坂井徳章の足跡を通じて」・柳原憲一先生(西日本台湾学友会元会長)「政権発足一年目の蔡英文總統〜その展開と可能性」掲載記事:産経新聞6月19日、フクニチ住宅新聞11月10日...298
5月27日	台湾台日海交會による熊本地震被害再建支援義捐金(251,000円)を産経新聞厚生文化事業団に寄託 掲載記事:産経新聞5月28日、6月21日...268	6月30日	台北駐那覇經濟文化辦事處 蘇啓誠處長表敬訪問(6.30~7.21名)...299
5月28日	産経新聞に一面広告掲載...269	7月17日	第15回台湾特別講演会 第6回実行委員会・慰労会(花万葉 23名/28名)...300
5月29日	海原会主催豫科練戦没者慰霊祭参列(陸上自衛隊武器学校内 雄翔團 1名)...270	8月 9日	産経新聞に一面広告掲載(「南京アピール」発表)...301
6月 2日	第14回台湾特別講演会 第5回実行委員会(アーバン・オフィス天神 10名)...271	8月12日	保安堂(趙麗惠氏以下2名)歓迎午餐会(千羽鶴 5名)...302
6月 5日	第14回台湾特別講演会・交流会(ソラリア西鉄ホテル 講演会298名/交流会 151名) 基調講演 黄文雄先生(文史史家)「台湾總統選(戦)が切り拓く世界新秩序〜日本・米・国・台湾の新しい展開」/パネルディスカッション「戦後体制から躍り出た台湾人の台湾〜私たちはどう向き合うべきか」:黄文雄先生(文史史家)、「台湾と世界の未来」:施光恒先生(九州大学大学院准教授)、「言語空間の奪還が創造した偉大な地平」:柳原憲一先生(西日本台湾学友会前会長)「誠心(まごころ)で台湾人を結結させた若き指導者、蔡英文」掲載記事:産経新聞6月6日、フクニチ住宅新聞11月4日...272	8月15日	第1回終戦記念日 護国神社参拝(福岡縣護国神社 17家族 41名)...303
6月15日	ライセンスメイト「台湾慰霊訪問団特集」発行...273	9月 6日	沼田岩夫名誉顧問葬儀参列(別府・セルモ玉泉院別府会館、2名)...304
7月 2日	第14回台湾特別講演会 第6回実行委員会・慰労会(花万葉 23名/24名)...274	9月13日	中華民国(台湾)領事着任をお祝いする会(桃林 4名)...305
7月 8日	台北駐那覇經濟文化辦事處 蘇啓誠處長表敬訪問(7.8~7.10 1名)...275	10月 6日	台湾双十節式典参加(ホテルオークラ 25名)...306
8月23日	台北駐福岡經濟文化辦事處 戎義俊處長主催懇親会(好記 7名)...276	11月 3日	第19次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店 170名) ・旅程説明会 30名 ・記念講話:戎義俊先生(台北駐福岡經濟文化辦事處處長)「日本精神〜日台を結ぶ目に見えない絆」76名 ・結団式・壮行会 64名 掲載記事:産経新聞11月4日、フクニチ住宅新聞12月1日...307
10月 6日	台湾双十節式典参加(ホテルオークラ 16名)...277	11月22日	第19次訪問旅行(11.22~11.26 62名)(A班11.22~11.26 56名、B班11.24~11.26 6名)...308
10月 8日	第18次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店 169名) ・旅程説明会23名 ・記念講話:戎義俊先生(台北駐福岡經濟文化辦事處處長)「台湾の歴史教育と日台関係」81名 ・結団式・壮行会 65名 ※「永石辰郎顧問を偲ぶ会」兼ねる 掲載記事:産経新聞10月9日、フクニチ住宅新聞12月2日...278	12月22日	台北駐福岡經濟文化辦事處 戎義俊處長主催忘年会(アーフェリーク迎賓館福岡 2名)...309
11月22日	第18次訪問旅行(11.22~11.26、50名)(A班11.22~26 44名、B班11.24~26 6名)...279	12月31日	第21回台湾シリーズ放送「第19次台湾慰霊訪問の旅を終えて」(スタジオ日本日曜討論、年末年始篇第25弾、12.31、1回、6名、累計452名)...310
12月10日	台湾在日福岡留学生会 忘年会(ホテルクリオコート博多 2名)...280	平成30年 1月10日	第13回台湾人留学生初詣おせち会(花万葉 4名)...311
12月21日	台北駐福岡經濟文化辦事處 戎義俊處長主催忘年会(ヴェガ 2名)...281	1月20日	第19次訪問団結団式・報告会(平和樓本店 69名) ・記念講話:戎義俊先生(台北駐福岡經濟文化辦事處處長)「明治維新150年と台湾」69名/帰朝報告会 57名/新年会 50名 掲載記事:産経新聞1月21日、フクニチ住宅新聞4月20日...312
12月28日	第19回台湾シリーズ放送(スタジオ日本日曜討論12.28、1回)...282	2月21日	第16回台湾特別講演会 第1回実行委員会(アーバン・オフィス天神 13名/懇親会 8名)...313
平成29年 1月21日	第18次訪問団結団式・報告会(平和樓本店 84名) ・記念講話:戎義俊先生(台北駐福岡經濟文化辦事處處長)「蔡英文新政権を語る」60名 ・帰朝報告会 59名 ・新年会 64名 掲載記事:産経新聞1月22日、フクニチ住宅新聞3月10日、臺灣新聞2月6日...283	2月25日	第22回台湾シリーズ放送「日台の魂の交流/南京攻略80年〜原台湾元日本兵軍人軍属英霊顕彰の旅」(スタジオ日本日曜討論、本篇第118弾、2.25・3.18~4.1、4回、16名、累計468名)...314
2月25日	第15回台湾特別講演会 第1回実行委員会(アーバン・オフィス天神 16名/懇親会 16名)...284	6日	台北駐福岡經濟文化辦事處 戎義俊處長主催懇親会(友楽 7名)...315
3月18日	第15回台湾特別講演会 第2回実行委員会(アーバン・オフィス天神 15名/懇親会 12名)...285	3月21日	第16回台湾特別講演会 第2回実行委員会(アーバン・オフィス天神 16名/懇親会 7名)...316
4月 2日	第20回台湾シリーズ放送(スタジオ日本日曜討論、4.2~5.7、6回)...286	3月24日	宗教真光博多小修験道場 春季男志会「海の彼方の日本を訪ねて〜なぜいま「軍人勸諭」か」卓話:小菅玄三郎 随行者1名(研修生)...317
4月20日	山口県美祿市観光商工部(西田良平部長以下6名)来訪...287	4月13日	山口県美祿市観光商工部(神田高宏所長以下2名)来訪...318
		4月18日	第16回台湾特別講演会 第3回実行委員会(アーバン・オフィス天神 17名/懇親会 10名)...319
		5月13日	台湾在日福岡留学生会新入生歓迎会(八仙閣2名)...320
		5月19日	産経新聞に一面広告掲載...321
		5月20日	東海新報に一面広告掲載...322



『明治維新150年にあたり』

日華(台)親善友好慰霊訪問団

団長 小菅 亥三郎

文久3年、長州藩は英・仏・蘭・米の四国連合艦隊と戦い敗れました。その後に続く談判で彼らは講和の条件として下関南端の彦島の租借を求めてきました。講和談判の使者にたった24歳の高杉晋作はこれを拒否し、賠償金を支払い、下関砲台の撤去など5つの条件で講和条約にこぎつけます。もし租借を受け入れていたら彦島は香港のような運命をたどっていたに違いありません。これは当時の日本人が貧富、貴賤、老若に拘わりなくいかに領土の重要性を認識していたかを象徴する出来事です。

今年は幕藩体制が崩壊して150年目にあたりますが、「五箇條ノ御誓文」によって開始された明治維新とは一体何だったのでしょうか。まず第1は日本人の領土の防衛でした。藩の領民にすぎなかった人々が国家の国民、陛下の臣民としての自己に目ざめ、国土や国境を意識し、男たちはその防人になり、女たちは戦人(いくさびと)の子を沢山産み共に他国の奴隷にはなるまいと決意したことです。その具現化として国軍である皇軍を創設しました。第2の「陸海軍人ニ賜ハリタル敕諭」です。第3は神武建国以来2千5百有余年に

亘りわが国と臣民を導いて下さった天皇家の有り様を「皇室典範」として成文化したことです。第4は隙あらばわが国を併呑せんとする欧米列強と対等に涉り合うために最強の武器として「大日本帝國憲法」を制定したことです。そして第5は臣民の後続を「教育ニ關スル敕語」で担保したことです。

さて明治天皇は典憲(皇室典範と大日本帝國憲法)を裁定し発布するにあたり、祝詞である「告文(おつげぶみ)」でご自身を「皇朕(すめらわれ)」と自称されご先祖様であられる皇祖皇宗にご報告しています。次の「憲法發布敕語」では「朕國家ノ隆昌ト臣民ノ慶福トヲ以テ中心ノ欣榮トシ」として憲法発布の目的を鮮明に述べておられます。また、「上諭」では「朕ハ我カ臣民ノ權利及財産ノ安全ヲ貴重シ及之ヲ保護シ此ノ憲法及法律ノ範圍内ニ於テ其ノ享有ヲ完全ナラシムヘキコトヲ宣言ス」とまで述べられ国民国家建設の決意を打ち出しておられます。

まさにわが国・日本が世界史上類例のない一大家族国家として近代史に輝かしい第一歩を踏み出した瞬間です。しかし私たちは大事なことを見過ごすわけにはいきま

せん。それは陛下をはじめの「告文」の中で「皇朕レ天壤無窮ノ宏謨ニ循ヒ惟神ノ寶祚ヲ承繼シ舊圖ヲ保持シテ敢テ失墜スルコト無シ」と述べておられることです。幕末から明治にかけて、否、昭和20年代に至るまでアジア・アフリカにおける近代国家としては唯一の独立国としてその地位を誇ったわが国・日本ですが、それは自前の版図を領有してこそはじめて可能であったのです。このあまりにもあたり前の常識が、今、まさに崩されようとしています。

それは他でもない外国人による土地取得です。西の対馬が韓国の侵略を許し、北の守りの要である北海道が中国資本の集中砲火にさらされています。すでに東京ドーム1千個分を越す土地(領土)が買収されました。まさに「武器をもたない、目に見えない戦争が繰り返されている」のです。しかもこれらの経済侵攻は「合法的」に行なわれています。驚くべきことに、今のわが国には外国人が土地などの不動産を買収することへの規制やルールが存在しません。領土・国民そして主権があつてこそこの国であるし、それらが「商品化」されていないからこそ「安心」して末代までの夢や計画が描

未曾有の国難の今日を思う』

けるのですが、外国人が土足で自宅に上がり込み、娘(=国民)をさらっていき、札ビラで土地(=領土)を買い叩けるような情けない国家が一体歴史上どこに存在したのでしょうか。

イギリスから海を隔てた北の果てにアイスランドという小さな島国があります。中国と友好関係を結んでいるにも拘わらず、土地取引については断乎とした態度で臨み、中国資本には決して勝手には買わせないという態度をとっています。中国ではアイスランドによる土地購入が認められないのに、どうしてアイスランドは中国による土地購入を認めなければならないのか、という素朴な疑問を国家による決断にまで高めたことはヨーロッパ各国に図り知れない波紋を投げかけています。人口30万人で、しかも軍隊さえ保有していない国ができていることを、1億2千万人の国民が居住し、世界有数の「軍事力」を誇る自衛隊がありながら、なぜわが国にはできないのでしょうか。

一方、隣国の台湾ではどうでしょうか。昭和19・20年、台湾最南端の鵝鑾鼻岬とフィリピン北端バタン諸島の間のバシー海峡は、

ここで潜伏する米潜水艦や爆撃機の攻撃のために、わが国の多くの輸送船が海没して甚大な被害を受けました。そんな中、九死に一生を得たひとりに中嶋秀次氏がいます。氏は沈められた200隻と25万将兵の水漬く屍を弔うため昭和56年私財を投じて潮音寺を建立されました。氏の後半生そのものである広大な敷地と寺院は、中嶋氏を中心とする法要団に所有権が移ったかと思いきや、台湾では外国人の土地所有権は認められていません。そのため現在は高雄の鐘佐榮氏が地権者として管理運営されています。外国人が地権者にならない制度、こんなに健全な領土空間はありません。

大東亜戦争の末期に「特攻」という手段によってわが身と引きかえにしてまで守ろうとした「国土(=舊圖)」を商品一般の用語である「土地」として軽々に外国人に売却する愚は決して犯してはなりません。「国破れて山河在り」は唐の詩人、杜甫による五言律詩の一句ですが、このまま推移すると「国破れて山河もなし」になってしまいます。私たち「日本人」は一体どこにいけないのでしょうか。自国にいながらにして「難民認定」を受けろということでは

うか。その時のために早々と名所旧跡や景勝地を「世界遺産」に登録しているのでしょうか。

50年に及ぶわが国の統治の遺産である「近代化」と「日本精神」を国づくりの根幹に復元した台湾、明治国体の覇気を封印しその金字塔を破壊し続けた戦後の日本、同じ70年とはいえ余りにも違いが大きすぎます。わが国はヨーロッパではアイスランドに、そして近隣諸国では世界一の親日国・台湾に学び領土を防衛しなければなりません。

領土50年を自然体で素朴に受け止めてくれる台湾、学校教育では日本統治時代を「認識台湾」(教科書)で公正に伝えてくれる台湾、明治日本の現在進行形の写し鏡である台湾、いわゆる「戦前」を懐かしみ肯定的に評価してくれる台湾、そして何よりも統治時代の価値や魂を「日本精神」として大切に継承してくれている台湾。未曾有の国難の今日、明治維新150年にあたり、私たち日本人は手を携える相手を見誤ってはならないと思います。

平成十一年以来、私達は宝覺寺における「原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭」に参列させていただき、三万三千余柱の御霊の安らかならんことをお祈りしてまいりました。今後も、この顕彰事業を風化させることなく、更に充実、拡大し、「日台の魂の交流事業」として次世代に継承していくことが、「日本人として散華された英霊にお応えする私達の務めであると考えています。それは、この道こそが、民主的な平和国家として独立している台湾を支援し、真の友好関係を打ちたて、両国を結ぶ生命の絆をより一層深めてゆくことにはかならない事と、これらの行為が、日台両国の安全と国益に合致し、ひいては東アジア全体の平和と安定に寄与するものと確信するからです。私達は、この道を邁進することによって、日台国交回復へ向けた国民運動の大きなうねりを創出してゆくことを、霊前にお誓い申し上げます。

以上の決意も新たに、わが国の近代史に比類なき勇氣と獻身を刻まれた英靈のご遺徳を偲び、御霊の平安を心より祈念し、慰霊の言葉といたします。

吾日本の一角に起つ

民國百六年

皇紀二千六百七十七年

十二月二十五日

日華(台)親善友好慰靈訪問団

團長 小菅亥三郎

台湾訪問の旅 訪台者一覧（第1次より第19次までの団員363名）

也	聖	野	辨
郎	子	友	小松
正	隆	陽	小柳
浩	佐	丸	五郎
江	美	丸	五郎
子	梅	藤	齋
どり	み	坂	榎
	弘	原	田
幸	照	中	本
	三	阪	城
夫	彰	井	櫻
和	英	護	佐
建	美	々	佐
朗	木	々	佐
佳	木	竹	佐
子	聖	竹	佐
子	秀	竹	佐
子	冬	藤	佐
彦	敏	藤	佐
三	正	井	譚
照	吉	先	塩
吉	晋	松	重
子	源	原	篠
好	博	田	柴
章	章	田	柴
明	英		

神木	橋	勉彦
須	治道	生子
北	辰靖	尚平
木	付	嘉權
城	所	賢二
木	下	秀人
木	村	孝子
木	村	武子
木	村	空
清	瀨	勝
清	谷	尚枝
桐	野	隆德
桐	野	健貴
國	武友	男一
久	保	直雄
久	保	山
倉	田	栄男
倉	田	光太
黒	田	賢郎
黒	池	務子
古	賀	房誠
古	賀	靖啓
小	菅	紀武
小	菅	三吾
小	菅	順三
小	菅	健太郎

川根倉副塚野濱居藤栗田原澤澤那霸那淵瀨野茅野河	小倉倉副塚野濱居藤栗田原澤澤那霸那淵瀨野茅野河	岡倉倉副塚野濱居藤栗田原澤澤那霸那淵瀨野茅野河	子美彦子帆 智和弘美 克治明里和志規司三敏幸弘夫代美隆裕子 芳辰正実善一正慎聖勝伸正明千礼 李武喜輝紀櫻慧一
-------------------------	-------------------------	-------------------------	--

井上誠二
井原ツ子
井口四郎
原村昭加
今崎重美
岩瀨元仁
岩本本周
岩元弘善
岩元宣み
ウクラムスレンドラサーニ
牛島康智
江頭伸一
江崎君公
エドワーズ博美
大石憲英
大嶋俊玲
太田玲子
塚本ヨシ子
坪龍彦
西敬吾
大橋雅樹
庭昭仁
大林道夫
山田さやか
岡猛江
緒俊美

青木松見淺野倍部阿部阿部阿部阿部荒荒有吉藤藤飯島村田池田石川石塚石原石原石川藤來井田井上	繁公晃輝敏雅政和也也忠弘政明紀志茂裕秀俊妙章二祐憲清徹田健俊昌	政昭甲彦俊美也也助子明子津美久雄子臣三教三子夫洋二治俊
--	---------------------------------	-----------------------------

原台湾人元日本兵軍人軍属三万三千余柱の御霊の御前にて

祭文

とまれわが国が軍事的敗北を余儀なくされたといへ、四百年以上に及ぶ欧米列強の植民地支配に終止符をうち、アジアにおける全ての權益を失わせしめ、結果、民族自決の潮流を澎湃として巻き起こしたのは紛れもない世界史的事実です。

これを偉業といわずして一体何と呼べいいのでしょうか。陛下の臣民として東洋平和のために共に血と汗を流した同志的兄弟感・一体感はいくくして形成されました。台湾の皆様が五十年間の日本統治時代の伝統や文化、はては「大和魂」を高く評価し、これを「日本精神」として継承している世界に類を見ない親日的な国家・国民である由縁はここに淵源があります。

私達は、このような台湾の皆様の誠心に応えていくと共に、私達日本人に民族としての自覚と誇りを高めていくために、兄弟交流・家族交流を深め、兄弟感・一体感を強固なものにしていくことが肝要であると考えています。

しかるに、一部においては「日中友好」の名の下に、政治的建造物である「南京屠殺館」の訪問などを通じて、誤った歴史観や反日的・自虐的な見方、考え方を植え付けようという愚行が後を絶たないのが、残念ながらわが国の現状です。国内に巣喰う利敵集団と

美次貴佳	博子彌始郎	子美	敬治子雄輔彦	史然範子
清照齊祐美実	義茂亞達邦光政誠隆百淳	初惠治子敬学昭	大康子妙好自秀智	
原丸岡下	儀永永葉鍋原好本井山	岡下田ヶ部内	鹿口口口口	
原松松松松松松松松松	森森森森森守矢安山山山山			
前又松松松松松松松松松				

明伍
 由子
 和彦
 扶雄
 金二
 有美
 智子
 滋枝
 章史
 澤子
 耕菜
 一男
 豐郎
 民雄
 邦彦
 孝典
 友秀
 明彦
 純生
 武敏
 茂茂
 和代
 克巳
 潤子
 久美
 義義
 三三

弘治二年	憲工亮	平憲彦	里紀子	典雄子宏	敦子	治子美紀敏洋
安洋憲正岩真	昭三治優	修政康修	千克雅	和種經泰臣	智睦誠	淳悅弘由武文
村山邊木田之口田見音本田田田田東野高吉泉尾	西山庭沼根野野羽橋花濱原林原原原久日日日平平平					

朗	
一子	浩聖
憲明	博夫
公重	大介
田	信輔
園野	公一
畑村	利哲
村村	卓朝
村村	那津
村山	英夫
山石	茂隆
永永	辰郎
永永	昌巳
永濱	夕マ
永瀨	武司
永長	裕章
永名	保正
越嶺	紀二
越田	讓智
條田	美秋
成南	千實
西	也

[illegible]

nippon-taiwan.org 祭文／台灣訪問の旅 訪台者一覧



〈一目でわかる訪問先・交歓先〉

〈訪問先〉(訪問年月日順／日付は初回訪問日)

- ①故宮博物院／H11.3.6
- ②忠烈祠(台北)／H11.3.6
- ③龍山寺／H11.3.6
- ④阿美文化村／H11.3.6
- ⑤太魯閣峽谷／H11.3.7
- ⑥梨山／H11.3.7
- ⑦日月潭／H11.3.7
- ⑧宝覺寺／H11.3.8
- ⑨日本人墓地(台中)／H11.3.8
- ⑩飛虎將軍廟／H11.3.8
- ⑪安平古堡(紅毛城)／H11.3.8
- ⑫東方技術学院(旧東方工商専科学学校)／H11.3.8
- ⑬夜市(高雄・六合路)／H11.3.8
- ⑭寿山公園／H11.3.9
- ⑮澄清湖／H11.3.9
- ⑯蓮池潭／H11.3.9
- ⑰育英医護管理専科学学校／H12.11.24
- ⑱孔子廟(台南)／H12.11.24
- ⑲高砂義勇隊戦没英霊記念碑／H13.11.26
- ⑳徳生長老教會／H14.6.8
- ㉑愛河／H14.11.23
- ㉒奇美博物館／H14.11.24
- ㉓烏山頭ダム(烏山頭水庫)／H14.11.24
- ㉔芝山公園／H14.11.26
- ㉕八田與一記念館／H15.11.24
- ㉖南栄技術学院／H15.11.24
- ㉗九族文化村／H15.11.25
- ㉘日本人墓地(高雄)／H16.11.23
- ㉙潮音寺／H16.11.24
- ㊱明石元二郎総督墓所／H16.11.26
- ㊱保安堂／H17.11.23
- ㊱孔子廟(台中)／H17.11.25
- ㊱台中公園／H17.11.25
- ㊱夜市(台中・中華路)／H17.11.25
- ㊱国史館台湾文献館／H17.11.25
- ㊱濟化宮／H17.11.25
- ㊱貞愛親王殿下登陸記念碑／H19.11.24
- ㊱夜市(台北・士林区)／H19.11.25
- ㊱中華民國外交部／H19.11.26
- ㊱台北101ビル／H19.11.26
- ㊱鹽水國民小學／H20.11.24
- ㊱八角樓／H20.11.24
- ㊱富安宮／H20.11.24
- ㊱鵝鑾鼻公園／H21.11.23
- ㊱巴士海峡／H21.11.23
- ㊱殉工碑／H21.11.24
- ㊱三一基督長老教會／H22.3.13

- ㊱忠烈祠(桃園)／H22.3.14
- ㊱海尾朝皇宮／H22.11.23
- ㊱勸化堂／H22.11.25
- ㊱林森公園／H23.11.22
- ㊱東龍宮／H23.11.23
- ㊱八田與一記念公園／H23.11.24
- ㊱台中市政府／H23.11.24
- ㊱新化國民小學御眞影奉安殿／H24.11.23
- ㊱台南武徳殿／H24.11.23
- ㊱台南市政府／H24.11.23
- ㊱二峰圳(地下ダム)／H25.11.23
- ㊱喜楽發發森林公園／H25.11.23
- ㊱烏來酋長文化村／H25.11.26
- ㊱篤行基督長老教會／H26.8.16
- ㊱高雄市政府／H26.11.24
- ㊱台湾無名戦士記念碑／H28.11.23
- ㊱台湾總統府／H28.11.26
- ㊱海明禪寺／H28.11.22
- ㊱二二八紀念公園／H28.11.26
- ㊱台湾日本関係協会／H29.11.22



現地メディアの取材を受ける小菅団長(台北)

〈交歓先〉(交歓年月日順／日付は初回交歓日)

- 許國雄先生／H11.3.8
- 台湾中日海交協会／H11.11.24
- 蘇金淵先生／H11.11.25
- 蕭興從先生／H11.11.25
- 詹徳寛先生／H14.11.23
- 許文龍先生／H14.11.24
- 何怡涵・陳清華ご夫妻／H15.11.24
- 台灣台日海交會(旧「台灣台日海交聯誼會」)／H16.11.24
- 台中市日本文化協會／H16.11.25
- 王春茂・馮英鳳ご夫妻／H16.11.25
- 沈芳以・呉月雲ご夫妻／H17.11.25
- 蔡焜燦先生／H18.11.26
- 台日文化經濟協會／H18.11.26
- 黃明山・葉美麗ご夫妻／H20.11.24
- 黃崑虎先生／H21.11.24
- ラバウル會／H22.11.24
- 黃文雄先生／H25.11.22

台湾慰霊の旅 訪問先・交歓先一覧

	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目
第1次訪問 23名 H.11.3.6～9 土～火 ガイド 李 燕光 神僧職 なし 旅行社 ヤマトトラベル (15ヶ所)	①故宮博物院 ②忠烈祠 ③龍山寺 ④阿美文化村 (花蓮泊)	⑤太魯閣峡谷 ⑥梨山 ⑦日月潭 (日月潭泊)	⑧宝覺寺 →日本人墓地(慰霊式) ⑨飛虎將軍廟(慰霊式) ⑩安平古堡 ⑪東方工商専科学学校 →交歓会(許國雄先生) ⑫夜市 (高雄泊)	⑬寿山公園 ⑭澄清湖 ⑮蓮池潭
第2次訪問 17名 H.12.11.23～26 木～日 ガイド 陳 賜賢 神僧職 なし 旅行社 近畿日本ツーリスト (9ヶ所)	①蓮池潭 ②寿山公園 ③夜市 (高雄泊)	④育英医護管理専科学学校 →東方工商専科学学校 →交歓会(許國雄先生) ⑤孔子廟 ⑥安平古堡 ⑦飛虎將軍廟(慰霊式) (台中泊)	⑧宝覺寺→ 日本人墓地(慰霊式) →靈安故郷碑(慰霊祭) ⑨交歓会(台湾中日海交協会) (台北泊)	
第3次訪問 38名 H.13.11.23～26 金～月 ガイド 陳 賜賢 神僧職 古賀靖啓 旅行社 近畿日本ツーリスト (9ヶ所)	①故宮博物院 ②夜市 (高雄泊)	③東方工商専科学学校 →交歓会(許國雄先生) ④孔子廟 ⑤安平古堡 ⑥飛虎將軍廟(神事) (台中泊)	⑦宝覺寺→日本人墓地(神事) →靈安故郷碑 (慰霊祭/神事) ⑧交歓会(台湾中日海交協会) (台北泊)	⑨高砂義勇隊戦没英霊 記念碑(神事)
第4次訪問 38名 H.14.11.23～26 土～火 ガイド 呂 見清 神僧職 古賀靖啓・田村邦明 旅行社 近畿日本ツーリスト (12ヶ所)	①蓮池潭 ②寿山公園 ③愛河→交歓会 (詹徳寛先生) ④夜市 (高雄泊)	⑤孔子廟 ⑥奇美博物館 →交歓会(許文龍先生) ⑦飛虎將軍廟(神事) ⑧烏山頭ダム (台中泊)	⑨宝覺寺→日本人墓地(神事) →靈安故郷碑 (慰霊祭/神事) ⑩交歓会(台湾中日海交協会) ⑪日月潭 (台中泊)	⑫芝山公園(慰霊式)
第5次訪問 23名 H.15.11.23～26 日～水 ガイド 呂 見清 神僧職 堀川克巳 旅行社 近畿日本ツーリスト (9ヶ所)	①飛虎將軍廟 (神事) (台南泊)	②烏山頭ダム→八田與一・ 外代樹夫妻墓所(神事) →八田與一記念館 ③奇美博物館 →交歓会(許文龍先生) ④南栄技術学院 ⑤交歓会(何怡涵・陳清華 ご夫妻) (台中泊)	⑥宝覺寺→日本人墓地(神事) →靈安故郷碑 (慰霊祭/神事) ⑦九族文化村 ⑧交歓会(台湾中日海交協会) (台中泊)	⑨芝山公園(慰霊式)
第6次訪問 8名 H.16.11.23～26 火～金 ガイド 林 英志 神僧職 なし 旅行社 近畿日本ツーリスト (11ヶ所)	①日本人墓地 (慰霊式) ②寿山公園 ③夜市 (高雄泊)	④潮音寺(慰霊式) ⑤飛虎將軍廟(慰霊式) ⑥交歓会(台湾台日海交聯 誼會) (台中泊)	⑦宝覺寺→日本人墓地(慰霊式) →靈安故郷碑(慰霊祭) ⑧交歓会(台湾中日海交協会) ⑨交歓会(台中市日本文化協會) ⑩交歓会(王春茂・馮英鳳ご夫妻) (台中泊)	⑪明石元二郎総督墓所 (慰霊式)
第7次訪問 20名 H.17.11.23～26 水～土 ガイド 林 英志 神僧職 なし 旅行社 近畿日本ツーリスト (14ヶ所)	①保安堂(献花式) ②寿山公園 ③交歓会(何怡涵・ 陳清華ご夫妻) (台南泊)	④飛虎將軍廟 (慰霊式) ⑤奇美博物館 ⑥烏山頭ダム→ 八田與一・ 外代樹夫妻墓所 (慰霊式) ⑦交歓会 (台湾台日海交聯 誼會) (台中泊)	⑧宝覺寺→ 日本人墓地(慰霊式) →靈安故郷碑(慰霊祭) ⑨交歓会 (台湾中日海交協会) ⑩交歓会 (台中市日本文化協會) →孔子廟→台中公園 ⑪交歓会 (沈芳以・呉月雲ご夫妻) ⑫夜市 (台中泊)	⑬明石元二郎総督墓所 (慰霊式) ⑭芝山公園(慰霊式)

※ →について ①同じ所在地の中での移動、②ガイド以外の同一人による連続した案内箇所

台湾慰霊の旅 訪問先・交歓先一覧

	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目
第8次訪問 35名 H.18.11.23～26 木～日 ガイド 簡 添宗 神僧職 なし 旅行社 協進観光 (12ヶ所)	①保安堂(慰霊式) ②交歓会(何怡涵・陳清華ご夫妻) (台南泊)	③飛虎將軍廟(慰霊式) ④奇美博物館→交歓会(許文龍先生) ⑤烏山頭ダム→八田與一・外代樹夫妻墓所(慰霊式)→八田與一記念館 ⑥交歓会(台湾中日海交協会) (台中泊)	⑦宝覚寺→日本人墓地(慰霊式) →靈安故郷碑(慰霊祭) ⑧交歓会(台湾台日海交會) ※台中市日本文化協會合流 ⑨國史館台湾文獻館(調査) ⑩濟化宮(献花式) (台北泊)	⑪高砂義勇隊戦没英霊記念碑(慰霊式) ⑫講話(蔡焜燦先生)→交歓会(台日文化經濟協會)	
第9次訪問 25名 H.19.11.23～26 金～月 ガイド 簡 添宗 神僧職 なし 旅行社 協進観光 (14ヶ所)	①保安堂(慰霊式) ②奇美博物館→交歓会(許文龍先生) ③交歓会(何怡涵・陳清華ご夫妻) (台南泊)	④飛虎將軍廟(慰霊式) ⑤烏山頭ダム→八田與一・外代樹夫妻墓所(慰霊式)→八田與一記念館 ⑥貞愛親王殿下登陸記念碑 ⑦交歓会(台湾台日海交會) ※台中市日本文化協會合流 (台中泊)	⑧宝覚寺→日本人墓地(慰霊式) →靈安故郷碑(慰霊祭) ⑨交歓会(台湾中日海交協会) ⑩濟化宮(献花式) ⑪夜市 (台北泊)	⑫中華民國外交部 ⑬台北101ビル ⑭交歓会(台日文化經濟協會)	
第10次訪問 31名 H.20.11.22～26 土～水 ガイド 簡 添宗 神僧職 なし 旅行社 JTBトラベル九州 (19ヶ所)	①高砂義勇隊戦没英霊記念碑(慰霊式) ②芝山公園(慰霊式) (台北泊)	③保安堂(慰霊式) ④東方技術学院 ⑤奇美博物館→交歓会(許文龍先生) ⑥飛虎將軍廟(慰霊式) ⑦交歓会(何怡涵・陳清華ご夫妻) (台南泊)	⑧烏山頭ダム→八田與一・外代樹夫妻墓所(慰霊式)→八田與一記念館 ⑨鹽水國民小學→八角樓 ⑩交歓会(黃明山・葉美麗ご夫妻) ⑪貞愛親王殿下登陸記念碑 ⑫富安宮 ⑬交歓会(台湾台日海交會) (台中泊)	⑭宝覚寺→日本人墓地(慰霊式)→靈安故郷碑(慰霊祭) ⑮交歓会(台湾中日海交協会) ⑯濟化宮(献花式) ⑰夜市 (台北泊)	⑱中華民國外交部 ⑲交歓会(台日文化經濟協會)
第11次訪問 30名 H.21.11.22～26 日～木 ガイド 簡 添宗 神僧職 なし 旅行社 JTBトラベル九州 (20ヶ所)	①保安堂(慰霊式) (墾丁泊)	②鵝鑾鼻公園 ③潮音寺(慰霊式) ④巴士海峡(献花式) ⑤奇美博物館→交歓会(許文龍先生) ⑥飛虎將軍廟(慰霊式) ⑦交歓会(黃明山・葉美麗ご夫妻) ⑧夜市 (高雄泊)	⑨烏山頭ダム→八田與一・外代樹夫妻墓所(慰霊式)→殉工碑(献花式)→八田與一記念館 ⑩交歓会(何怡涵・陳清華ご夫妻) ⑪鹽水國民小學(歓迎式典)→八角樓 ⑫交歓会(黃崑虎先生) ⑬交歓会(台湾台日海交會) (台中泊)	⑭宝覚寺→日本人墓地(慰霊式)→靈安故郷碑(慰霊祭) ⑮孔子廟 ⑯交歓会(台湾中日海交協会) ⑰濟化宮(慰霊式) (台北泊)	⑱高砂義勇隊戦没英霊記念碑(慰霊式) ⑲中華民國外交部 ⑳交歓会(台日文化經濟協會)

※ →について ①同じ所在地の中での移動、②ガイド以外の同一人による連続した案内箇所

台湾慰霊の旅 訪問先・交歓先一覧

	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目
第12次訪問 46名 H22.11.22～26 月～金 ガイド 簡 添宗 徐 永隆 神僧職 なし 旅行社 JTBトラベル九州 (19ヶ所)	①芝山公園 (慰霊式) ②講話 (蔡焜燦先生)	③烏山頭ダム⇒八田與一・外代樹夫妻墓所(慰霊式)⇒殉工碑(献花式)⇒八田與一記念館 ④交歓会(何怡涵・陳清華ご夫妻) ⑤海尾朝皇宮 (献花式)⇒飛虎將軍廟(慰霊式) ⑥保安堂(慰霊式) ⑦交歓会(黄明山・葉美麗ご夫妻) (高雄泊)	⑧鹽水國民小學 (歓迎式典) ⑨交歓会 (ラバウル会) ⑩宝覺寺(A班)、台中公園(B班) ⑪交歓会(台湾台日海交會) ⑫夜市 (台中泊)	⑬宝覺寺⇒日本人墓地(慰霊式)⇒靈安故郷碑(慰霊祭) ⑭交歓会(台湾中日海交協会) ⑮勸化堂(献花式) ⑯濟化宮(献花式) (台北泊)	⑰高砂義勇隊戦没英霊記念碑 (慰霊式) ⑱中華民國外交部 ⑳交歓会 (台日文化經濟協會)
第13次訪問45名 H23.11.22～26 火～土 ガイド 簡 添宗 呂 芳儀 神僧職 塩先晋照 旅行社 JTBトラベル九州 (17ヶ所)	①中華民國外交部 ②高砂義勇隊戦没英霊記念碑 (慰霊式) ③交歓会(台日文化經濟協會) ④林森公園 (台北泊)	⑤飛虎將軍廟 (慰霊式) ⑥奇美博物館⇒交歓会(許文龍先生) ⑦東龍宮(慰霊式) ⑧交歓会(黄明山・葉美麗ご夫妻) (高雄泊)	⑨保安堂(慰霊式) ⑩烏山頭ダム⇒八田與一・外代樹夫妻墓所(慰霊式)⇒殉工碑(献花式)⇒八田與一記念館⇒八田與一記念公園 ⑪台中市政府 ⑫交歓会(台湾台日海交會) (台中泊)	⑬宝覺寺⇒日本人墓地(慰霊式)⇒靈安故郷碑(慰霊祭) ⑭交歓会(台湾中日海交協会) ⑮濟化宮(献花式) (台北泊)	⑰明石元二郎総督墓所(慰霊式) ⑱芝山公園(慰霊式)
第14次訪問38名 H24.11.22～26 木～月 ガイド 簡 添宗 曾 英明 神僧職 なし 旅行社 JTB九州 (20ヶ所)	①保安堂(慰霊式) ②交歓会(黄明山・葉美麗ご夫妻) (高雄泊)	③東龍宮(慰霊式) ④新化國民小學御眞影奉安殿 ⑤台南武徳殿 ⑥飛虎將軍廟 (慰霊式) ⑦台南市政府 (台南泊)	⑧鹽水國民小學 (歓迎式)⇒八角樓 ⑨貞愛新王殿下陸記念碑 (献花式) ⑩富安宮(慰霊式) ⑪交歓会(台湾台日海交會) (台中泊)	⑫宝覺寺⇒日本人墓地(慰霊式)⇒靈安故郷碑(慰霊祭) ⑬孔子廟 ⑭交歓会 (台湾中日海交協会) ⑮濟化宮(献花式) ⑯交歓会(台日文化經濟協會) (台北泊)	⑱芝山公園 (慰霊式) ⑲中華民國外交部 ⑳林森公園 ㉑交歓会 (蔡焜燦先生・黄文雄先生)
第15次訪問32名 H25.11.22～26 金～火 ガイド 簡 添宗 謝 添基 神僧職 なし 旅行社 JTBトラベル九州 (16ヶ所)	①忠烈祠(献花式) ②中華民國外交部 ③林森公園 ④交歓会(黄文雄先生) (台北泊)	⑤二峰圳(地下ダム)⇒喜楽發發森林公園 ⑥東龍宮(慰霊式) ⑦保安堂(慰霊式) ⑧交歓会(黄明山・葉美麗ご夫妻) (高雄泊)	⑨海尾朝皇宮(献花式)⇒飛虎將軍廟(慰霊式) ⑩烏山頭⇒八田與一・外代樹ご夫妻墓所(慰霊式)⇒殉工碑(献花式)⇒八田與一記念館⇒八田與一記念公園 ⑪歓迎会(台湾台日海交會) (台中泊)	⑫宝覺寺⇒日本人墓地(慰霊式)⇒靈安故郷碑(慰霊祭)⇒台中公園 ⑬交歓会(台湾中日海交協会) ⑭濟化宮(献花式) ⑮交歓会(台日文化經濟協會) (台北泊)	⑰高砂義勇隊戦没英霊記念碑(慰霊式)⇒酋長文化村

※ ⇒について ①同じ所在地の中での移動、②ガイド以外の同一人による連続した案内箇所

台湾慰霊の旅 訪問先・交歓先一覧

	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目
第16次訪問 48名 H26.11.22～26 土～水 ガイド 簡 添宗 吳 志仁 范 智凱 神僧職 なし 旅行社 近畿日本ツーリスト (18ヶ所)	①高砂義勇隊戦没英霊記念碑(慰霊式)→舊長文化村 ②林森公園(献花式) ③交歓会(黄文雄先生) (台北泊)	④烏山頭ダム→八田與一記念館→殉工碑(献花式)→八田與一・外代樹ご夫妻墓所(慰霊式)→八田與一記念公園 ⑤東龍宮(慰霊式) ⑥交歓会(黄明山・葉美麗ご夫妻) (高雄泊)	⑦保安堂(慰霊式) ⑧高雄市政府 ⑨飛虎將軍廟(慰霊式) ⑩富安宮(慰霊式) ⑪交歓会(台湾台日海交會) (台中泊)	⑫宝覺寺→日本人墓地(慰霊式)→靈安故鄉碑(慰霊祭) ⑬孔子廟 ⑭交歓会(台湾中日海交協會) ⑮濟化宮(献花式) ⑯交歓会(台日文化經濟協會) (台北泊)	⑰芝山公園(慰霊式) ⑱中華民國外交部 (台北泊)
第17次訪問 32名 H27.11.22～26 日～木 ガイド 簡 添宗 鄭 清川 神僧職 なし 旅行社 近畿日本ツーリスト (17ヶ所)	①明石元二郎台湾総督墓所(慰霊式) ②交歓会(黄文雄先生) (台北泊)	③台湾無名戦士記念碑(慰霊式) ④東龍宮(慰霊式) ⑤交歓会(黄明山・葉美麗ご夫妻) (高雄泊)	⑥保安堂(慰霊式) ⑦高雄市政府 ⑧飛虎將軍廟(慰霊式)→海尾朝皇宮(参拝) ⑨奇美博物館 ⑩交歓会(台湾台日海交會) (台中泊)	⑪宝覺寺→日本人墓地(慰霊式)→靈安故鄉碑(慰霊祭) ⑫台中公園 ⑬交歓会(台湾中日海交協會) ⑭濟化宮(献花式) ⑮交歓会(台日文化經濟協會) (台北泊)	⑰中華民國總統府 ⑱中華民國外交部 (台北泊)
第18次訪問 50名 H28.11.22～26 火～土 ガイド 簡 添宗 鄭 清川 神僧職 なし 旅行社 近畿日本ツーリスト (17ヶ所)	①海明禪寺・富田直亮將軍墓所(慰霊式) ②中華民國外交部 ③交歓会(黄文雄先生) (台北泊)	④昭和天皇(裕仁皇太子)御手植え榕樹→原臺歩兵第2連隊本部・兵舎跡→衛戍病院跡 ⑤海尾朝皇宮(参拝)→飛虎將軍廟(慰霊式) ⑥東龍宮(慰霊式) ⑦交歓会(黄明山・葉美麗ご夫妻) (高雄泊)	⑧保安堂(慰霊式) ⑨烏山頭ダム→八田與一記念館→殉工碑(献花式)→八田與一・外代樹ご夫妻墓所(慰霊式)→八田與一記念公園 ⑩富安宮(慰霊式) ⑪交歓会(台湾台日海交會) (台中泊)	⑫宝覺寺→日本人墓地(慰霊式)→靈安故鄉碑(慰霊祭) ⑬台中国家歌劇院 ⑭交歓会(王春茂・憑英鳳ご夫妻) ⑮濟化宮(献花式) (台北泊)	⑰芝山公園(慰霊式) ⑱中華民國總統府→二二八記念公園 (台北泊)
第19次訪問 62名 H29.11.22～26 水～日 ガイド 簡 添宗 瞿 紹成 張 祐銘 陳 偉博 神僧職 なし 旅行社 新亜旅行社 (アイティオージャパン) (17ヶ所)	①海明禪寺・富田直亮將軍墓所(慰霊式) ②交歓会(台湾日本関係協会) (台北泊)	③富安宮(慰霊式) ④八角樓→鹽水國民小學(歓迎式) ⑤飛虎將軍廟(慰霊式) ⑥保安堂(慰霊式) ⑦交歓会(黄明山・葉美麗ご夫妻) (高雄泊)	⑧鵝鑾鼻岬(献花式)→鵝鑾鼻公園 ⑨潮音寺(慰霊式) ⑩東龍宮(慰霊式) ⑪交歓会(訪問団) (台中泊)	⑫宝覺寺→日本人墓地(慰霊式)→靈安故鄉碑(慰霊祭) ⑬孔子廟 ⑭交歓会(台湾台日海交會) ⑮濟化宮(献花式) ⑯交歓会(黄文雄先生) (台北泊)	⑰芝山公園(慰霊式) ⑱交歓会(台日文化經濟協會) (台北泊)

※ ➔について ①同じ所在地の中での移動、②ガイド以外の同一人による連続した案内箇所

第19次 台湾親善友好慰霊訪問の旅 帰朝報告

期間 平成29年11月22日（水）～26日（日）

参加者 62名

■ 11月22日（水）

離陸前のトラブルで
一時間遅れて出発

今次訪問団員62名のうち、22日福岡出発の49名は、8時に福岡空港国際線出発ロビーに集合し、荷物を預けた後、特別待合室で出発式を行いました。小菅団長の挨拶に続いて、訪問の目的、意義、役員の紹介、名刺や学習資料の配付、団旗の交付、旅行社からの注意事項の説明等の後、記念写真の撮影を済ませ、出国手続きへ向かいました。出国手続きを無事終えた一行は、チャイナエアライン111便に乗り込みましたが、搭載荷物数の確認に手間どり、予定より一時間送れの12時、空路台北へ向けて出発し、現地時間13時15分に桃園国際空港に到着しました。入国手続きを済ませて空港待合室に出ると、今回で12回目となるガイドの簡添宗さんや新垂旅行社の皆さんが温かく出迎えて下さいました。既に到着していた3名の現地合流組の皆さんと共に、専用バスで早速、最初の訪問地である海明禪寺へと向かいました。

法要と呼ぶに相応しい慰霊式

新北市樹林区にある海明禪寺は、富田直亮陸軍少将をお祀りする禪寺で、昨年に続き2度目の訪問です。お寺への道路が狭いため、途中4台の小型バスに乗り換えて納骨堂に着きました。納骨堂で読経が行われた後、僧侶に先導されて、小菅玄三郎団長がお遺骨と遺影を納骨堂からお預かりして祭壇に安置しました。富田少将の遺骨と遺影の前に整列した一行は、国旗敬礼、国歌斉唱、黙祷、小菅団長による祭文奏上、田中道夫、原田泰宏団長代行による献花と、肅々と慰霊式を斉行しました。田中団長代行の挨拶の後、小菅団長に続き各自献香し、お遺骨と遺影を納骨堂にお返しして慰霊式を終えましたが、静まりかえった境内で

営まれた式は、まさに法要と呼ぶに相応しい感動を与えました。

分け隔てのない団長の姿勢を称賛

海明禪寺を後にした一行は、台湾日本関係協会主催の歓迎夕食会に臨みました。主催者を代表して張淑玲秘書長の代理の謝延淙参事が歓迎の祝意を述べられた後、小菅団長が答礼の辞を述べ、4月まで福岡の辦事處で副領事をされていた李惠珊科長が挨拶されました。李科長は、辦事處在任中に多くの訪問団の行事に参加した想い出や、職員の就任に際して分け隔てすることなく歓送迎会を団長が開いてくれたこと等を披露され、訪問団の姿勢を賞賛されました。会食では外交部（外務省）特注のワインまで振舞われましたが、素晴らしい味でした。和やかな雰囲気の中で、飲食、歓談を楽しんだ後、充実した気持ちで三徳大飯店に戻り、初日の旅の疲れを癒しました。

■ 11月23日（木）

義愛公に元警察官の堀純生氏、
根之本昭憲氏が献花

ホテルで朝食を摂った後、一行は8時21分台北駅発の台湾高速鉄道（新幹線）で嘉義まで南下しました。嘉義駅で専用バスに乗り換え、この日の最初の訪問先である富安宮を訪れました。嘉義縣東石郷にあるこのお宮は、地元民に敬慕された「義愛公」と森川清次郎巡査をお祀りしており、早速巡査の御霊の平安を祈って慰霊式を執り行いました。式では福岡県警の元警察官の堀純生氏と根之本昭憲氏の献花に続いて、小菅団長が祭文を奏上しました。堀純生氏は、慈愛に満ちた森川巡査を称える挨拶をされ、団員の皆さんの共感を得ました。慰霊式の後、森川巡査の住居跡やの功績を称えたレリーフ等を見学し、地元の方々に盛大な爆竹と共に見送られながら富安宮を後にしました。

創立120年の

鹽水國民小學を訪問

レストランで昼食を摂った後、台南へ向かい、鹽水鎮にある八角樓を訪れました。八角樓は伏見宮貞愛親王殿下が鹽水港に上陸された際、ご宿舎とされた所で、台南の豪商であった葉連成が建てた歴史的建造物です。敷地内には「伏見宮貞愛親王御遺蹟鹽水港御舎営所」と記された石碑が建っています。一行が見学している時、葉一族の末裔である葉璽修という老人が樓にまつわる話をし、参考になりました。

八角樓の見学を終えて次に向ったのは近くにある鹽水國民小學です。ここは、第14次訪問以来、5年振りの所です。校内の資料館に案内され、盧彦賓校長先生の歓迎の挨拶をいただき、小菅団長と教員の福田章枝さんが感謝の言葉を述べました。この小学校は明治31年の創立で、校内には鳥居、参道、石燈籠を備えた「鹽水國小神社」があります。全員で、竹の短冊に願い事を記して奉納し、参拝して訪問を締めくくりました。校長先生と無邪気な子どもたちを交え写真を撮り、校門脇の樹齢100年を越す黒板木にも別れを告げました。

小学校を後にした一行は、台南市へと向かい、次に飛虎將軍廟を訪れました。激しく鳴り響く爆竹の音と共に、多くの地元の方々が出迎えて下さいました。廟の前に整列し、訪問団の作法に従って慰霊式を斎行し、小菅団長が祭文を奏上し、団長、団長代行による献花、横尾秋洋顧問をはじめ、団長、副団長による献香を行いました。その後、団員各自が献香し、廟内を見学し、廟の前で記念写真を撮り、再び爆竹の音に見送られながら廟を後にし、一行を乗せたバスは高雄へ向いました。

松俵常任顧問に代わって 義弟の倉田光男氏が献花

高雄では、保安堂を訪れました。趙麗恵さんをはじめ、地元のみなさんの温かいお出迎えを受け、大日本帝國海軍軍艦の艦長の鎮魂の慰霊式を執り行いました。国旗敬礼、国歌斉唱、祝詞奉納の後、保安堂にゆかりの深い松俵義博常任顧問の代理として義弟の倉田光男氏が献花と挨拶をされて執り収めました。今回は松俵顧問が残念ながら参加できず、義弟の倉田光男氏に保安堂での慰霊式を託しておられましたが、感動的なご挨拶をいただき、無事大役を果たされ、ご英霊もよろこばれたことと思います。

約束の時間よりも少し遅れましたが、黄明山、葉美麗台湾支部長ご夫妻による歓迎夕食会に参加させていただきました。いつものように、支部長のご家族をはじめ林信一台湾支部事務局長やご親類の皆さんが大勢お見えになっていて、一家総出の歓迎でした。黄支部長の歓迎の挨拶、小菅団長の挨拶に続いて今年も林事務局長の愛娘の愛子ちゃんが美しいバイオリンの音色を披露してくれました。会食が進むにつれて、あちこちのテーブルで談笑の花が咲き、故郷に帰ったような心地よい感覚に浸りながら、楽しいひと時を過ごさせていただきました。2時間あまり交流を深めた後、名残を惜しみつつ来年の再会を約して、宿泊先の華王大飯店に戻りました。

■ 11月24日(金)

バシー海峡に向って菊の花を献花

3日目のこの日は、高雄から更に南下して、台湾最南端の鵝鑾鼻岬を目指しました。専用バスで3時間弱で鵝鑾鼻岬に到着、眼前には紺碧の海が広がっていました。打ち寄せる波濤のすぐ傍らで、大東亜戦争末期に米国潜水艦や爆撃機によって、今なおバシー海峡の海底深くに眠られているご英霊を鎮魂するための献花式を執り行いました。バシー海峡に向って黙祷を捧げた後、団員1人ひとりが波間に菊の花を投下し、献花を行い、沖縄から参加された山

城竜治氏が追悼の挨拶をされて献花式を終えました。海岸で遊んでいた台湾の皆様も私たちの献花の様子を暖かく見守っておられました。

暴風の中で慰霊式を斎行

その後、鵝鑾鼻灯台のある鵝鑾鼻公園を散策し、猫鼻頭海岸に漂着したご遺体を手厚く供養している潮音寺に於いて慰霊式を斎行しました。立っているのがやっとといえる程の強風が吹き荒ぶ中、国旗が吹き飛ばされないようにと必死で支えている中学2年生と小学6年生の茅野櫻さん、慧さん姉妹が見守る中、小菅団長が祭文を奏上し、富原副団長が慰霊の言葉を捧げて式を終えました。本堂で献花をし、お参りをし、長嶺保介氏の慰霊訪問の旅への参加の感想を交えた挨拶で潮音寺の訪問を締めくくりました。

拝庭の完成した東龍宮

鳥居と田中將軍記念館を新設

次の訪問地、東龍宮に到着すると宮主の石羅界さんをはじめ、地元の皆さんが「歓迎」の電光掲示板と共に温かく出迎えて下さいました。第15次訪問の折、団員全員で鍬入れを行なった拝庭の増築工事も終わり、更に立派な外観に変わっており、皆さんの信仰の篤さをひしひしと感じました。私たちが忘れてはならないことは、田中綱常がこの枋寮の地で田中將軍となり、或いは田中元帥と称され、石宮主により廟が開かれ「神」として祀られていることです。そればかりか、石宮主は神の声に従い、資料を調査し、田中綱常が実在した人であることを知り、その故郷を訪ね、埋葬地を訪れ、子孫を探すことに尽力し、ついに4代目子孫との運命的邂逅を果たしました。また北川直征伍長も探しあて、今年4月には、田中家、北川家の両家族がここ東龍宮を参拝し、145年の月日を経て、再び「生命の絆」が繋がれたと伺いました。

御祭神である田中綱常將軍の御霊の平安を祈り、祭文を奏上し、慰霊式を執り行いましたが、団員の多くは何度も目頭をぬぐっておられました。慰霊式後は、新しく設けられた小

さな鳥居と御社、田中記念館などを見学し、用意されたフルーツなどを美味しくいただきながら、時を忘れて寛ぎました。東龍宮を後にした一行は、一路台中での慰霊団主催の交歓夕食会の会場へと急ぎました。

会場には、ここで合流のBプランの団員5名と台湾支部の事務局長、蔡淑如、蔡詠福兄妹、それに事前の呼掛けに応じて下さった台湾の皆様15名が既に待っておられ、更に慰霊式、慰霊祭にご協力いただいている甲飛喇叭隊第11分隊を率いる原知崇氏以下5名の皆様に加わり、準備した8テーブルが満席となりました。小菅団長の挨拶や台湾の皆様の紹介を経て開宴となりましたが、懐かしい顔ぶれの方も多く、各テーブルで談笑の輪が広がり、軍歌や日本歌謡などあつという間に時が過ぎ、レストランの閉店時間を越えるまで賑わいました。

■ 11月25日(土)

大勢の日本人観光客も焼香

今回の慰霊訪問の旅の最大の目的である台湾台日海交会主催の「原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭」に参列するため、ホテルを出発して宝覺寺へ向かいました。日章旗を先頭に隊列を組んで入場し、先ず境内の一角にある日本人遺骨安置所(日本人墓地)で慰霊式を斎行しました。墓前に整列し、国旗敬礼、国歌斉唱、黙祷、献花に続いて、原田泰宏団長代行が追悼の挨拶をされ、その後、団員全員でお線香をあげ回向しました。私たち一行を取り囲み、慰霊式を見守っておられた日本人観光客の皆さんにお声を掛けると、多くの方々が一緒に献香して下さい、同じ日本人としてこの日本人墓地の存在を知っていた、台湾の地で亡くなられた多くの先達のことを心に留め置いていただければと思いました。

年に1度の台湾の

家族親類に会える日

慰霊式を終え霊安故郷碑前での慰霊祭の席に着くと、昨年にも増してご遺族の皆様の少なさと参加者の高齢化をひしひしと感じました。

慰霊祭は、儀仗の喇叭で開始され、日台両国の国旗掲揚、国歌斉唱、軍艦旗掲揚に続いて、周良仁台湾台日海交会会長の挨拶、献香、献花、献果と進み、小菅団長による祭文奏上が行なわれました。厳肅な慰霊祭は「海ゆかば」を全員で合唱して終わりましたが、参加された団員の目には感涙が溢れていました。年に1度の参拝ですが、もし私たち慰霊訪問団がなくなれば、この慰霊祭の継続も難しく、時間とともに茲に眠る3万3千余柱の御霊も忘れられてしまうのも必至です。台北で林阿勇氏に「今は小菅団長のおかげで慰霊祭も何とか斎行できているが、団長も70歳になり、いつ何があるかわからない。早く若い人達が将来を考えておきなさい」と言われたことを思い出し、慰霊訪問団の責務を痛感した次第です。

その後、台湾の皆さんと一緒に記念写真を撮り、境内を散策、台中市内の孔子廟を見学して、台湾台日海交会主催の歓迎昼食会に臨みました。会場に着くと台湾の皆さんがお揃いで、熱烈な歓迎をして下さいました。周良仁会長の主催者挨拶、小菅団長の答礼の挨拶の後、開宴となり、各テーブルで話に花が咲きました。昨年までは、前夜祭としての夕食会でしたが、高齢や遠への配慮もあつてのことでしょうけれども、今年から昼食会に変更になりましたが、これまで以上に歓迎していただき、感謝の念に堪えません。この次にお会いできるのは1年後ということで、名残惜しい限りでしたが、次の訪問先が新竹の済化宮と遠方のため、2時間の会食でお暇乞いをしました。台中を出発して2時間程で済化宮に到着しました。お宮では謝鏡清董事長とお宮の皆さんが笑顔で出迎えて下さいました。本殿の前で小菅団長が祝詞を奏上し、全員で二礼二拍手一拝でお参りした後、香川県から参加の虫本隆夫氏が「今回3名の方と参加したが、今後も縁のある人を誘って参加したい」と挨拶され、献花式を終えました。その後、靖國神社から分祀された4万余柱の霊

璽を拝見させていただき、ご英霊に感謝の誠を捧げました。

社務所前でお茶とお餅のお接待を受け、山門で記念写真を撮った一行は、バスで新竹駅に向かい、新幹線に乗り換え、台北駅到着後に黄文雄先生主催の歓迎夕食会会場を目指しました。

慰霊訪問事業の最強の 支援者黄文雄先生

会場に着くと既に黄文雄先生をはじめ、この日のために海外から帰国された方や台湾の各界を代表する方々が待っておられました。黄先生は、平成25年の第15次訪問より、訪問団の日程に合わせわざわざ日本から台湾に来られ、数多くの台湾の政治家・文化人等との交流の場を準備して下さいています。こういう多士済々の方々と一緒にできるのも黄先生のお陰だと感謝すると同時に、黄先生の人脈の広さに敬服させられます。黄先生の歓迎の言葉に続いて、元駐日経済文化代表處代表の羅福全氏が、いろいろなエピソードを交えて挨拶され、小菅団長の答礼の辞の後、黄天麟台日文化経済協会会長の乾杯で開宴となりました。台湾の著名な方々ばかりですので、政治、経済、文化など各方面の話題に話がおよび、大いに盛り上がり時間を忘れて有意義なひと時を過ごしました。歓談が一息ついたところでお開きとなり、この日の宿泊先である三徳大飯店に帰り、各自、マッサージや夜市見学を楽しみ、深い眠りにつきました。

■ 11月26日(日)

親密さを深める台日 文化経済協会

最終日のこの日は、士林にある芝山巖を訪れ、明治29年1月元旦、土匪の凶刃に斃れた楫取道明先生以下6名の先生方の慰霊式を行いました。旧芝山巖神社跡に建てられた「学務官僚遭難之碑」の前に整列した一行は、国旗敬礼、国歌斉唱、黙祷を行い、田口俊哉氏が代表して献花、挨拶をして式を執り収めました。六士先生の難にもかかわらず、その後も「台湾の教化は武力の及ぶ所

ではなく、教育者が万斛の精神を費やし、数千の骨を埋めて始めてその実効を奏すことができる」と続々と教育者が台湾に渡り、国語伝習所が作られ、領台開始の僅か3年後には台湾全土に公学校がつくられ、その精神は現在も台湾教育界では「芝山巖精神」として引き継がれています。その先駆けとなった六士先生のお墓にお参りを済ませて下山した一行は、恵濟宮の山門で記念写真を撮り、芝山巖を振り返り、台湾教育に尽力された先生方のご遺徳を偲びました。

その後、台北市内に戻り、土産物店でショッピングを楽しみ、台日文化経済協会主催の歓迎昼食会に臨みました。日曜日の昼間にもかかわらず、黄天麟会長をはじめ、数名の幹部の皆様にご招待いただき、頭の下がる思いでした。黄会長の歓迎、小菅団長、横尾秋洋顧問の答礼の挨拶の後、会食となり、各テーブルに配席された協会幹部の皆様を交え、美味しい海鮮料理に舌鼓を打ちながら、親交を深めました。日曜日にもかかわらず私共の行程に合わせて歓迎会を催していただいたことに心から感謝すると共に、今後益々友好の絆を強固なものにしてゆかねばとの思いを新たにしました。

協会の皆さんと別れた一行は、桃園国際空港へと向いました。空港に着くと搭乗手続きを済ませ、5日間お世話になったガイドの簡添宗さんや瞿紹成さん達に厚くお礼を述べ、来年の再会を約して出国ゲートへと向いました。

空港を離陸したチャイナエアライン116便は19時45分に無事福岡空港に着陸しました。入国手続きを済ませ、空港ロビーで簡単な解散式を行い、全員の無事の帰国と台湾の皆様方の心温まるおもてなしに感謝しました。そして、沢山のお土産や思い出と共に、1月の帰朝報告会での再会を楽しみにして家路につきました。

(文責 原田和典)



第十九次 台湾親善友好慰霊訪問の旅 紀行文集(抄)

掲載は名誉顧問・常任顧問・副団長・班長・副班長・一般団員の順とした。

母に願いを込めて台湾へ

よこお あきひろ
顧問 横尾 秋洋氏

実は一昨年の十二月に母が脳梗塞と心筋梗塞そして肺炎で入院しました。昏睡状態が続き目も開けず、一方的に話しかけるばかりであり反応がありません。出発前日の二十一日に耳元で明日から五日間台湾に出かけるので元気でいて下さいとお願いして訪問団に参加いたしました。何かあれば連絡が取れるようにしていました。帰国して二十七日、二十八日と何事もなく過ぎたのですが二十九日夕刻、容態が急変して翌三十日朝七時に他界しました。

今、よく考えると母は私の言っていることが解かっていたのだな、と思えてなりません。私が帰国するのを待っていたかのような旅立ちでした。

特に今回の訪問で感銘を受けたのは、校庭に鳥居と神社があり、また幼稚園を併設している鹽水國民小学校、児童たちの人懐っこさ。名刺を喜んで受け取るさま。日本では見られない純粋さ。この様子が昔の日本の子どもたちのありようだったんだろうなあ…と思わされました。

最南端の鵝鑾鼻岬での献花式と潮音寺の慰霊式は初めての訪問でありました。訪問先の中でも行けば行くほど感銘を受けるのは台湾の靖国神社といわれる南天山濟化宮。日本が統治した五十年間、日本人として生まれ日本人として散華された若き青年たち。まさか、

台湾人に戻っていようとは思ひもしないのではと思うと胸にこみあげてくるものがあります。

来年は記念すべき第二十次。参加すべく日程調整に励みます。

英霊が護った日本を取り戻すことが慰霊につながる

はらだ やすひろ
団長代行・副団長 原田 泰宏氏

慰霊訪問の旅は、今回で六回目となりました。宝覺寺で開催されている慰霊祭では、元日本人の軍人軍属や従軍看護婦の方々にお会いすることが大変楽しみだったのですが、皆さん九十歳以上にもなられ、今年は目に見えてこれらの参加者が少なく、寂しく思いました。日本人以上に日本を愛し、日本を憂え、そして大和魂を持っておられる元日本人です。本物の日本人として、本当の日本を知る貴重な日本の宝、いえ日本そのものが消えて失くそうとしていと感じ、強い危機感と、早く日本を取り戻さねばとの焦燥感を覚えました。

今回バシー海峡に面する鵝鑾鼻岬と、その海峡で奇跡の生還を果たした中嶋秀次氏が私財を投げ打って建立された潮音寺に慰霊に訪れました。強い風にさらされながら、南シナ海と太平洋が合流する海域を見ていると、命を落とされた方々の無念さを思わずにはいられませんでした。慰霊訪問の旅では日本人や日本人として亡くなられた台湾人軍人・軍属が祀られている寺や

廟を訪れますが、鵝鑾鼻岬や潮音寺はまさに英霊を直接感じられる場所であり、どうすれば慰霊になるのかを考えずにおられませんでした。

今までの私の慰霊は、命を賭して戦っていた英霊に感謝し、ご冥福をお祈りすることでした。しかし、それだけでは、英霊の無念を晴らすには十分ではないように感じたのです。

私にとっての台湾慰霊訪問の旅は、英霊が護りたかった日本になりつつあることをご報告し、ご安心いただくと共に、日本を取り戻す決意を新たにす旅をしたいと思っています。

日本と日本人の魂は慰霊訪問の旅で見つかる

おおやま たけし
副団長 大山 猛氏

四年で連続参加させて戴きました。いきなりで恐縮ですが、長崎市の「おくんち」は毎年十月七から九日にかけて開催されますが、一年観ただけでは「くんちを観た」とは言えないと云われています。当番踊り町は七年に一度廻ってくるので七年連続して観て、はじめて「長崎くんち」を観たと言えるかと云われています。それと同じような事が「台湾慰霊訪問の旅」ではないかと思いました。同じ場所を訪問しても感動は増してゆき、熱いものが込み上げてきますが、新たに訪問した所では一入です。その中で今回最も感動し、涙したのは台湾最南端のフィリピンとの間にあるバシー海

●ご協力ありがとうございます。

台北駐福岡經濟文化辦事處

處長 戎 義 俊

☎(092)734-2810

〒810-0024 福岡市中央区桜坂3-12-42

美祿市観光商工部

☎(0837)52-1532

〒059-2292

山口県美祿市大嶺町東分326-1

峽を望む鵝鑾鼻岬で皆様と海へ菊花を投じた事です。二十五万余の将兵の英霊が、私達が来たことを喜んでるのかのように、海の波は穏やかにうねり、様々な色合いをみせてくれました。

近くの高台の二十五万将兵の御霊の安住の寺「潮音寺」で、強風吹きすさぶ中、慰霊式を挙行した折、小菅団長の小中学生のお孫さん二人が、一所懸命国旗を掲げられ、倒れそうなのを堪えられていたのが印象的でした。

訪問先の何処でもそうでしたが、其々の慰霊の場所で団長が「祭文」を秦上されましたので、慰霊の意味がよくわかり、気持を高める事が出来ました。また、中華民国外交部をはじめとする公的機関や民間との夕食会、昼食会が毎日あり、今年も再会できた喜びが溢れていました。冒頭に書きました通り、参加する度に新鮮な感動を得ます。「日本と日本人の魂は台湾慰霊訪問の旅で見つかる」と思います。

英霊に導かれた 不思議な偶然

とみはら ひろし
副団長 富原 浩氏

潮音寺は私にとって二度目の参拝となります。今年の六月二十四日、暑い中に一人で訪ねました。探すのに時間はかかりましたが、丘の上に立つ白い建物は、周囲に何も無いせいか、夏の太陽に輝きまぶしいほどでした。

ここへ来るきっかけになったのは、六月に開催される恒例の台湾特別講演会の時でした。講演会は懇親会に移り、トイレに行こうと歩いていると、立ち話中の高間光廣さんの傍を通った時、高間さんの声が耳に入りました。「台湾に行くのだったら『慟哭の海峡』ぐらいは

読んでおかないとなー」。この一言がとても心に残りました。今思うと、不思議な偶然でした。私は早速、博多駅前の紀伊国屋書店で「慟哭の海峡」を買いました。本を購入し、すぐに台湾行きを手配して、この台湾南端の墾丁(こんてい)に来るまでに読んだのでした。潮音寺に来たのは六月二十四日でした。「慟哭の海峡」はジャーナリストの門田隆将氏がバシー海峡で奇跡の生還を果たした中嶋秀次氏取材し、話を直接聞いて書き上げた実録の本でした。

一命を取りとめた中嶋氏は戦後、船とともに死んでいった戦友を忘れることができませんでした。彼らを弔うために自分の財産をなげ打って、潮音寺建立に命を賭けました。中嶋氏が後半生を賭けて造られたのがこの潮音寺です。

初めて訪れた潮音寺は静かでした。白亜の建物は、シャッターが閉まっていた。私は石碑に手を合わせました。「バシー海峡戦没者慰霊の碑」と書かれていたように記憶しています。この海峡で亡くなられた二十数万を数える英霊碑なのだわかりました。再び、あたりの静けさや、建物の雰囲気を感じ、シャッターの閉まった潮音寺に向い手を合わせて帰ろうと身をひるがえした時、「ガラ、ガラ、ガラ」と音がしました。振り向くとシャッターが開いていきます。その瞬間、「これは奇跡だ」と思いました。シャッターの隙間に二本の足が見えました。やがて中から、手招きをして「入って見ていきなさい」といつている様でした。中に入っても、まだ不思議な感じがしていました。多くの英霊のみなさんが私に味方したのだと思いました。中に入って、名刺を戴きました。そこには李陽明とありました。ここを管理していて清掃にきた様でした。私があと少しの時間、遅くても、早くてもこの偶然に

は出会わなかったのです。お陰で一階の写真などや仏前に手を合わせることができました。また、二階も見せてもらい、お参りが出来ました。掃除をしていた李さんにお礼を言って外に出ました。

外は来た時と同じように、南国、熱帯の太陽がまぶしく輝いていました。

参加することに大きな 意義があると感じた旅

つた けんいち
第一班 班長 津田 建一氏

第十九次日台親善友好慰霊訪問の旅に昨年に続き二回目の参加となりました。

今回訪問させて頂いて強く心に焼き付いたバシーの海、遠方の海の色は、どこまでも蒼く群青色をし、岸辺から見える水は、エメラルド色で透き通った清らかな水、打ち寄せる白波は純白でした。二十数万の将兵の方々がこの海域で撃沈され、この湾岸に漂着した海に思わず手を合わせ、御霊への慰霊に菊一輪を捧げさせて頂きました。私にとって終生忘れることが出来ない場所となりました。又、団員の集合写真を撮るときに観光客の皆さん方が慰霊訪問の旅の横断幕と共にカメラに収められることが訪問先で多くあり、一般の方々に知って頂くことも意義がある様に思いました。宝覺寺の日本人墓地での焼香、参拝のときも観光客の方々にも参拝して頂きました。それぞれの訪問地での心温まるおもてなしに、十九年続けてこられた体験の積み重ねにただただ敬意を表します。

日台の親善友好慰霊訪問を通じ、日台国交回復実現に向けて少しでも役に立てればと健康に留意して参加させて頂きたいと思います。

●ご協力ありがとうございます。

ひとをつくり まちをつくり くにつくる

九州不動産専門学院グループ

代表 小菅 亥三郎

☎(092)714-4131

〒810-0001 福岡市中央区天神1-3-38

教育正常化教職員ネットワーク

福岡教育連盟

執行委員長 藤野 英二

☎(092)631-2901

〒812-0045

福岡市博多区東公園7-7

福岡県庁地下1階

人と出会う事

第二班 班長 たくち としや
田口 俊哉 氏

『人生というのは誰と出会うか、何と出会うか』だとよく言われます。約十年ほど前になりますが、たまたま車中で聞いたFM放送で、日曜討論番組を知りました。放送局がFMmimiと言って聞きなれない局で、しかも出演者はいかにも素人がやっていて、どちらかと言えば、ややぎこちない番組進行だったように思います。初めて聞く局名と番組内容に少し興味を惹かれました。聞いてその内容にどんどん引き込まれて行きました。そしていてもたっても居られず、思わずFMmimiのスタジオまで車を走らせました。

この時が小菅様との初めての出会いでした。それ以後は何か事ある毎に色々な情報やご案内を頂き、そして台湾慰霊訪問団の存在を知ることになります。しかし、なかなか優先順位が上がらず、やっと今年、第十九次台湾慰霊訪問団に参加する決意が整いました。

元々旅行に興味が無い私は、慰霊の為だけの旅行という事で、よく想像出来ませんでした。福岡空港での出発式に始まり、帰国後福岡空港での解散式まで完璧なスケジュール構成でした。それに旅の葉、学習資料まで準備して下さったことに深く感謝申し上げます。そして六十二名という沢山のメンバーを引率し、帰国まで何一つトラブルなく使命を全うされました。誠に感無量で有り、これは十九回に亘る慰霊訪問団の経験による叡智で有り、ずっと変わらぬ英霊に対する一途な誠心だと確信いたしました。その慰霊訪問団の心が、現地の台湾の人々の溢れる笑顔や、もてなし、そして力強い握手で直に伝わ

って参りました。

清国に勝利して我が国に割譲されて以来、台湾に思いを馳せ沢山の先人たちが命を懸けた歴史を、現地台湾でリアルに再確認し、その当時を想像し偲び、より感じる事が出来た事は何物にも代えがたい物です。そしてその歴史を今も御護り頂いている台湾の方々のひた向きな支援と奉仕に改めて感謝申し上げます。いまだ国交のない日本と台湾ではありますが、慰霊訪問団を通して、日本政府に代わって、そして僭越ですが、お心を痛めていらっしゃるであろう陛下に成り代わりまして、日本の代表として永久(とわ)に慰霊訪問を続けていけますよう努めてまいります。

涙が溢れ出る バシー海峡の水平線

第三班 班長 くらた みつお
倉田 光男 氏

私は三回目の参加ですが、初参加から、お寺、お宮を慰霊、参拝するたびに感動、感激、感謝の連続でした。

今回の訪問の旅では台湾最南端のお寺に行く途中のバスの中、バシー海峡の水平線は、言葉では言い表せない感動で胸が熱くなり涙が溢れ出るのが止まりませんでした。大東亜戦争中に、海の底深くに隠れた潜水艦や空からの爆撃機により、二百隻もの輸送艦、護衛艦艇が沈没し、海峡は想像を絶する光景だったと思います。そのためにこの海峡は、「魔のバシー海峡」、「海の墓場」と言われていました。途中バスを降りての菊花の献花では、今も海の中深くに眠られる、二十万余のご英霊の皆様の安らかなる眠りと未来永劫の平安をお祈りしました。潮音寺参拝の後、歸りの車中から見た海峡は、水平線に沈む

夕日が海面に美しく輝いて、ご英霊の皆様が私達訪問団を、また来てよと見送ってくださっている様に感じられ、この地まで慰霊参拝に来ることができて本当に良かったと思っています。

保安堂では献花の栄誉をいただき、兄、松俵義博の代理として精一杯務めさせていただきました。兄も、次回二十次慰霊訪問の旅には必ず参加したいと申しております。保安堂は、戦後間もないころ沈没した日本帝國海軍艦艇を祀っています。沖合で地元漁民が漁をしている時に発見した身元不明の遺体の頭蓋骨を引き上げ、手厚く供養しました。以降大漁が続いたので昭和二十八年に保安堂を建立し、お祀りしています。今も、日本人を神様として祈りを捧げ、守り神とし、祝詞の代わりに朝に夕に「軍艦マーチ」を流しています。自分は今のままでいいのか、何かできる事があるのではと考えさせられます。

日本人より日本人を 愛する台湾人

第五班 班長 なかみね やすゆき
長嶺 保介 氏

沖縄県より初めて台湾慰霊訪問の旅に参加させていただきました。沖縄と台湾は、とても近い距離で百十キロ弱です。沖縄でも多くの人達が台湾で生れ育ったという話は幼い頃から聞いたことがありました。しかし、大日本帝國時代にこれだけ多くの方々が日本の未来の為、台湾の未来の為に命を捧げてきた歴史を五十歳になるまで知らなかった自分の無知を恥ずかしく思いました。沖縄でも大東亜戦争で多くの方々が亡くなり、私自身の親類にも亡くなった方がいます。現在では、戦争の惨たらしさだけが語り継がれています。

●ご協力ありがとうございます。

ふれあい 学びあい 助けあい
九州不動産専門学院グループ同窓会

九 栄 会

会長 松尾 嘉三

☎(092)714-4341

〒810-0001 福岡市中央区天神1-3-38

売買、賃料、相続、訴訟、担保、資産の評価



社団法人 日本不動産鑑定協会正会員

(株)国際不動産鑑定所

代表取締役
不動産鑑定士 山口 勝彦

☎(092)483-3350

〒812-0013

福岡市博多区博多駅東1-12-5

博多大島ビル4階

今回、台湾慰霊訪問の旅に参加して、台湾の方々が戦前、戦後に限らず、人々の為に命を捧げた多くの日本人を神として祀り、町や村で立派な鎮安堂や廟を建て、守護神として多くの老若男女に見守られていることがとても疑問で、なぜだろうと思いました。自分なりの思いですが、惨たらしさや悲惨さを語り繋ぐことは憎しみを生み、未来への一歩が遅れるのではないのでしょうか。一方で台湾には、親を大切にし、人々のために正しいことを命がけでやり抜いた多くの日本人とその業績を語り継ぐ文化が、戦前の教育により、今も純粹に残っているのではないかと思います。そして今日、台湾の方々が四万人の戦没者やバシー海峡で亡くなった二十五万将兵を祀り、その他多くの日本人を供養していたに心より感謝します。

私に出来ることは、自分の子供や友人知人に少しでも多く、そのような台湾のことを語り継いでいくことだと思います。

日本を取り戻すための行動を小さく始めるとは

ふくだ あきえ
第七班 班長 福田 章枝 氏

昨年に引き続き二回目です。昨年は初めての参加でしたので、旅の道中でいただく学習資料に首引きで、他のことには全く余裕がありませんでした。今年は、改めて日本国家の一員として、わずかでも踏み出さねばならないということをこの旅において決意した次第です。

私たちは日頃、自分の先祖をはじめお世話になった方々の墓前にお参りをする習慣を持っています。しかし、そうでありながら日本国家を護るために「国家の存亡を賭けて日本民族が、欧米諸

国と戦い、敗れたとはいえ三百万余の人々が命を散し護りぬいた国」「この日本民族の中には、台湾籍の軍人軍属、三万有余名の方々が含まれている事実」(陳惠美著『台湾人従軍看護婦追想記一すみれの花が咲いた頃』展転社)を近年まで私は認知していなかったのです。そして今回、日本人の物故者を大切にしておられる台湾の方々に直接して日本精神ここにありということを実感したのです。

三日目の訪問の旅の焦点は、台湾最南端の鵝鑾鼻岬での献花式と潮音寺での慰霊式でした。鵝鑾鼻岬はバシー海峡と太平洋の接点です。私はこの時はじめてバシー海峡で大東亜戦争中、推定二十五万の将兵が撃沈され、今もこの海底に御霊が眠っておられることを知ることになりました。この潮音寺は昭和十九年、玉津丸でフィリピンに向う途中、米軍により撃沈され十二日間も漂流の末、台湾の人の手厚い介抱によって奇跡的に蘇ったという中嶋秀次氏が私財を投じて昭和五十六年に建立したといわれています。私はここに人知では計り知ることのできない不思議な神の摂理を感じます。

二回目の慰霊訪問の旅を通して考えたことは、日本を取り戻すための行動を具体的に始めるということです。先ずは自分の子供たちや孫たちに英霊顕彰の意義を正しく伝えていきたい、このことを小さく始めようと思います。

バシー海峡に眠る将兵への献花式と慰霊式

むしもと たかお
第八班 班長 虫本 隆夫 氏

今回で二度目の参加ですが、台湾の人々の熱い歓迎には毎回驚かされ

ます。台北から高雄、そしてバシー海峡と台湾を南北に完全縦走した今回の慰霊の旅は素晴らしかった一言に尽きます。今年の最大のポイントは台湾最南端のバシー海峡を訪れたことです。ここに九死に一生を得た中嶋秀治氏のご努力で建立された「潮音寺」を訪問できたことは誠に感謝に堪えません。大東亜戦争当時のバシー海峡は日本最南端であり、この海峡を巡る攻防戦が戦局を左右する大きな戦いの一つでした。特に戦争末期には、南方に向かって航海中の船舶が、米潜水艦の魚雷により撃沈され「魔の海峡」「運送船の墓場」と恐れられました。少なくとも十、最大で二十六万とも言われる多くの犠牲者が眠っています。そのような場所で慰霊式に参加し、海に向かって献花でき、誠にありがとうございました。

バシー海峡は現在の日本にとっても大変重要な場所です。東南アジアや中東からの工業製品、エネルギー資源等はこの海峡を通して日本に輸入されており、地政学的重要性は戦後七十二年を経た今でも変わっていません。それは日本にとっての台湾の重要性に結びつきます。日本と台湾との関係をより深くすることが今こそ必要です。びっくりしたのは、硫黄島に五千人の台湾の人が参戦していたことを、今回初めて知りました。本当に驚きました。先の大戦で台湾の方々の犠牲も大きかったことは聞いていましたが、あの硫黄島で五千人の人が日本を守るために、東京の空襲を一日でも延ばすために戦ってくれた。このようなことは、もっとしっかり知らせる必要があります。

次回もまた日本を思う仲間と参加したいと思っています。

●ご協力ありがとうございます。

(株) 関 家 具

代表取締役社長 関 文彦

☎(0944)88-3515

〒831-0033 福岡県大川市幡保98-7

快適な住空間の創造

ハウジング アーキテクチャー システム

(株) H A S

代表取締役 田中 道夫

☎(092)663-5510

〒813-0002

福岡市東区下原4-19-17

エトワール21-605

台湾は大国の圧力に屈せず、 末永く繁栄して欲しい

ほんま じゅんこ
第六班 副班長 本間 潤子 氏

今年も日台親善友好慰霊訪問団に参加させていただきまして有り難うございました。「佐渡から来ました」というと遠くから来たように思われる方がいますが、佐渡では明治大正時代から台湾へ移住した人達が多勢いました。佐渡島は現在人口五万人位の少子高齢化の過疎の島ですが、戦前は十二万人位いて働き口を求めて島外へ、海外へと出て行ったのです。台湾へも製糖会社に通きに行ったり学校の先生になった人もいたのですが終戦時に家族共々引揚げて来ました。今でも台湾をなつかしく思っている人も多いのです。交流会では元看護婦さん達に再会出来て楽しい時を過ごさせていただきました。

交流会で呉国亨さんは日本海をロマンチックに歌って下さいましたが、日本海は拉致や北朝鮮漁船や漁民の漂流する悲しい海でもあります。十一月二十五日と十二月三日に佐渡島の海岸に北朝鮮の漁船が遺体とともに漂着しました。佐渡には毎年五隻位の漁船が漂着するのですが、秋田県や能登半島等日本海側の海岸に次々と漂着しているそうです。

北朝鮮も台湾も一九四五年八月十五日に日本の領有から解放されましたが、それから七十余年天国と地獄程の差が生じたのは何故でしょうか。共産党一党独裁の社会主義体制と選挙で政権交代もある自由民主主義体制の違いか、圧政に屈した国民と圧政をはね返した国民の違いでしょうか。私は台湾の街角や新幹線の車内やレストラン等で談笑している人達の幸せそうな

姿を見る度に、台湾が大国の圧力に屈しないで末長く繁栄し続けて欲しいと心から願いました。

三度目が待ち遠しい 慰霊訪問の旅

まつなが たつしろう
第一班 津田班 松永 達始郎 氏

今回は昨年に続き二回目の参加で、多少気持ちに余裕をもって参加できたかなと思っています。第十九次台湾慰霊訪問の旅は、六十二人の参加ということでバス二台に分乗しての移動だったために、どうしても行程時間にズレが生じ、予定を変更せざるを得なかったことが少し残念でした。

しかし、初めて訪問した鹽水國民小學は校庭内に神社がある何とも不思議な小学校で、日本人に対する親愛的な態度・眼差しが印象的でした。更に台湾南端部の二十五万将兵の御霊の安住の寺「潮音寺」での強風吹き荒れる中での慰霊式、最南端の「鵝鑾鼻岬」でバシー海峡に向って英霊に献花し、手を合わせるという感動的行事を体験し、感涙しました。毎度のことながら、軽妙で分かりやすい団長の説明、またバス二台ということで新兵器を準備される用意周到さに感服いたしました。団長のお話に幾度となく「心」という言葉が出てきましたが、そのことが印象に残りました。

この慰霊の旅は、親日台湾を知り、慰霊訪問の主旨を理解し、共に旅する人達と諸々のことを体験し、学べる旅だと改めて感じた旅でした。

三度目が待ち遠しくなりました。

御縁をいただいて

さかぎばら
第一班 津田班 榊原 みどり 氏

初めてこの旅に参加させていただきました。十一月十日に大東亜戦争岩川芙蓉隊慰霊祭の手伝いをさせていただきましたので、自分なりに式典等頭に描いたものがありました。四泊五日間の慰霊訪問の旅は想像以上でありました。団長夫婦の思いが、行く場所々に込められており、十九回も継続していることに驚きを隠せませんでした。台湾全土の各地に、英霊を手厚く祭り神様として崇め奉って下さる地元の方々に深く感動しました。そして私達を心より歓迎して下さい、心打たれました。戦後七十二年が過ぎ台湾の歴史の一ページに触れ、古き良き日本に出会えた思いでした。損徳(得)にかかわらず、自分の手で汗水流したお金で参加することに意義がある。又、今日の平和な生活があるのは戦争の犠牲の上にある。と言う事を自覚し、自分にできる事を、できる場所で惜しみなくやらないといけない事を痛切に感じる旅になりました。

この交流がいつまでも続きますように来年も又、参加したいと言う目標ができました。

感動の旅、 慰霊訪問に参加して

くぼやま かずお
第二班 田口班 久保山 一雄 氏

もう二十年ほど前のことですが、台湾に観光で旅行した時のことです。日月潭の近くで原住民と思われる数人の老人に会いました。自ら名乗り出て、巧みな日本語で『自分は元帝國海軍軍人で

●ご協力ありがとうございます。

(株)アイティオージャパン

新亞旅行社股分有限公司 福岡事務所

☎(092)451-7511

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2-17-19安田第5ビル8階

総合印刷

大道印刷(株)

☎(092)582-0927

〒816-0873
春日市日の出町6-23

巡洋艦に乗り組んで戦いに参加していました。乗艦は敵潜水艦の攻撃に遭い沈没しました。しかし、運よく味方の駆逐艦に拾われて助かり、今日の私があります。今、持っている菓子は日本の観光客に差し上げるために作った菓子です。粗末だが心を込めている。どうぞ召し上がって下さい。』というのです。私は、「日本のために戦いに参加したのに日本が敗れて日本を恨んでいるでしょう。」と質問した処、「とんでもない。私は帝國海軍軍人として、戦いに参加したことを誇りに思っているし、台湾が今日あるのは日本のおかげです。日本には心から感謝しています。」との返事です。私は、台湾の方の心の広さ、温かさに深く心を打たれました。それから、年数も経ち私も老いましたが、今一度感動の旅を体験したいと台湾に出かける機会を探しておりましたところ、慰霊訪問の旅として立派な行事が行われていることを聞き、高齢をも顧みず、初めて参加させて頂きました。

準備された各所への慰霊訪問は、周到な行動計画と団長の懇切な説明により、台湾近代化の礎を築いた先人の努力の跡や、海陸の戦場に散った多くの将兵の方々に対する深い敬愛の念、鎮魂の誠を捧げることに大きな成果を収めることが出来たと思われまふ。加えて、訪問した各地での関係する皆さま方の日本語による温かい歓迎には心から敬服させられました。

今回の小さな旅を通じて私は、自分の国を愛することは勿論、我らの先輩たちが台湾の発展のために残して頂いた業績の一端に触れ、また、公のために命を捧げた多くの軍人・実業家・教職員等の方々の多感な生き様にも触れることが出来ました。振り返って我が国の現状を見ますと、公の為という行

動や心が薄くなり【私】が常に全面に出て、私中心の考えや行動が国中に広がっている現状で本当に嘆かわしいことだと思いを新たにしたい次第です

私も日本と台湾の永遠の友好を願って「日本の一角」に起つ

かやの さくら
第二班 田口班 茅野 櫻君(中学二年)

私は今回初めてこの慰霊訪問団に参加しました。私はこの旅に参加して「楽しい」よりも「嬉しい」の方が多かったです。

まず、台湾の方が日本語を上手に話していること。次にその方々が日本についていろんなことを知ってくれていること。私はこの二つが特に嬉しかったです。私は台湾について、祖父や母から教えてもらった少しのことしか知りません。日本のことを日本人よりも好きでいてくれる台湾の国のこと、人のこと、歴史のことなどたくさん知りたいと思いました。

今回の旅で私が心に残っている場所は、六士先生のお墓です。私は将来、海外青年協力隊に入り、世界の困っている子供達に勉強を教えたいと思っています。六士先生は台湾の子供達に教育をしに来たのに殺されてしまったと聞き、すごく悲しくなりました。でも、それと同時に立派なお墓があることが嬉しかったです。

台湾での五日間、私はたくさんの人に会いました。その中には、母が「台湾での私のお父さんとお母さんよ」といつて紹介してくれた方や、日本で兵士をしていた方、小学校の校長先生、看護婦だった方など尊敬できる方がたくさんいました。そんな方々と名刺を交換して当時の話などを聞いて、私たちが今、学校で習っている歴史とは違うことに悲し

い、悔しいと思いました。そして、私は正しいことを学ばないといけないと思いました。また、祖父がお寺やお墓の前で読んでいた祭文の「日台の生命の絆死守せんと 吾日本の一角に起つ」の言葉が心に残りました。

「日本のことを誇りに思えない」のはとても悔しいです

かやの けい
第二班 田口班 茅野 慧君(小学六年)

私は今年初めて日華(台)親善友好慰霊訪問団に参加し台湾に行きました。これが私にとって初めての海外旅行です。私が訪問団に参加しようと思ったきっかけは、参加した人の感想文を読んでもとても感動し、興味を持ったからです。

私が心に残ったのは五つあります。一つ目は「台湾日本関係協会主催歓迎夕食会」で外務省の李恵珊さんが、おばあちゃんの誕生日を祝ってくれたことです。まるで自分のことのようにうれしかったし、おじいちゃんとおばあちゃんを誇りに思いました。またその中で、李さんが言っていた「恩返し」という言葉です。日本人でも恩返しという言葉はあまり使わないので驚きました。

二つ目は潮音寺です。あの突風の中で国旗を持つのは大変でした。でも、訪問団の人たちも風に耐えて立っていたのです。すごいなと思いました。

三つ目は宝覺寺です。日本の人たちが九十年前に立てた木造のお寺を、台湾の人たちは建て替えるのではなくて、「日本人が建ててくれたから」と寺を覆う蔵を建てて下さったことに感動しました。私は台湾の方々が日本のことを守って下さっているように思えました。

四つ目は南天山濟化宮の位牌の数です。私は本当に四万柱もあるのか気

●ご協力ありがとうございます。

(有)浜崎理想瓦製造所

代表取締役 山下 康仁

☎(092)201-4010

〒891-0101 鹿児島市五ヶ別府町3786-12

柳原皮膚科クリニック

理事長 柳原 憲一

☎(092)586-7012

〒816-0943
福岡県大野城市白木原4-1-6

になったので、位牌の数を計算してみました。すると、約三万四千柱くらいありました。私はそれに対して、日本が他国の戦死者をお寺で祀っているとはあまり聞きませんが、台湾は日本の戦死者をちゃんと祀っている事に、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

五つ目は鹽水國民小學です。私は学校で南京大虐殺は本当の話だった、真珠湾攻撃は日本が予告せずにやった等の、反日的なことを教えられています。学校の子みんなは、日本は最低だ、中国はかわいそうだと思っています。私は日本の小学生なのに、私よりも日本らしい教育を受けている台湾の小学生達がうらやましいと思いました。また私は、日本の子なのに日本のことを誇りに思えないのはとても悔しいです。

私は訪問団としての五日間で、本当にたくさんのことを学びました。きっと普通の小学校生活では学べないと思います。私は、おじいちゃんがおじいちゃんに良かったと思っています。もしも、おじいちゃんがいなかったら、今頃私は日本のことが大嫌いだったと思います。おじいちゃんがこういうことを真剣に考えてくれるお陰で、私も本当の歴史が知れたし、台湾でたくさんの良い人たちに出会うことができたからです。

私は台湾で学んだことを学校の友達に伝えたいと思っています。また台湾に行きたいです。

台湾との強い絆

まつだわら しげこ
第三班 倉田班 松俵 茂子 氏

第十九次で通算九回目の参加となりました。今回は主人が参加できず残念でしたが、行く先々で大勢の人が待って下さっておりまして。

大東亜戦争での台湾の方々の悲惨な出来事を聞くたびに胸がいっぱいです。二十二日に海明禅寺、二十三日の富安宮では立派な出来屋根がついていました。保安堂では、皆さんが待っておられ、主人が来ていないことを伝えるとびっくりされていました。弟が主人に代わって献花をし、挨拶をさせていただきました。二十四日の巴士海峡では、ルソン島で亡くなった主人のお父様に「義博さんが会いに来ましたよ」と大きな声で水平線に向かって叫び献花をしましたが、涙がとまりませんでした。二十五日には宝覺寺の日本人墓地での慰霊式、靈安故郷碑前での慰霊祭では小菅団長の祭文が読み上げられ、胸がいっぱいになりました。二十六日、芝山巖では九回目にして初めて登りました。今まで膝を痛めていたこともあって失礼していましたが、今回は階段を一段一段、一步一步踏みしめ登りました。学務官僚遭難之碑での慰霊式、六士先生の墓参、初めての経験で今までの胸のつかえがとれた感じがしました。

日本にもあった富安宮

ねのき あきのり
第三班 倉田班 根之本 昭憲 氏

私は福岡県警在職時に、松俵義博常任顧問から「台湾で神様になった日本人巡査を祀る富安宮」を教えて頂き、退職後の昨年初めて慰霊訪問団に参加し、お宮の荘厳な空気感に圧倒され森川清治郎巡査の木像の前では、しばらく立ち尽くしてしまいました。そして今回再び森川巡査と対面できたが、昨年とはまた違った感情が湧いて、まだ私の心の中には警察魂が宿っているなど嬉しくなりました。

昨年来、現職警察官の後輩たちに

「富安宮」を紹介し慰霊訪問団参加も呼びかけたが、連続休暇はその職務柄ままならず実現できなかった。それならばこのような神社が日本にないのかと探したところ、全国で唯一の警察神が佐賀県に存在していたのである。その名は、唐津市肥前町高串の「増田神社」という。

早速、漁業の町の小高い丘にあった現地を訪ね、刻み込まれた慰霊碑の碑文や神社建立の歴史を観て、台湾の森川巡査と重なるところが多く驚いてしまった。

明治二十八年七月佐賀県巡査を拝命した増田敬太郎巡査は、その直後に高串地区で発生したコレラ伝染病の防疫活動のため、死者九名の遺体処理や七十数名の患者の手当てを三日三晩不眠不休で行ったが、四日目に自身が感染し翌日二十七歳の若さで殉職した。増田巡査は「高串のコレラは私があの世に背負って行きます」と言い遺した通り、以後コレラが終息したという。

村人は増田巡査の生前の壮烈なる功労と英霊を慰めようと、当時の鎮守様「秋葉神社」の一隅にその遺骨を埋葬し、時を経て秋葉神社は「増田神社」と合祀され慰霊碑も建立された。

二人の警察官に共通するのは、「身を捨てても地域の治安維持の任務に徹したこと」である。だからこそ時空を超えても、富安宮には国籍の隔てもなく観光客が訪れるし、増田神社では毎年夏には、佐賀県警あげて警察音楽隊や警備艇も動員し地元民と例大祭が盛大に行われている。

台湾に負けない警察官の鑑が、すぐ足を運べる肥前町にあることを伝えたいと思う。

●ご協力ありがとうございます。

山口県日台交流協会

会長 重富 剛克

☎(0820)58-1111

〒742-1111 山口県熊毛郡平生町佐賀鳩ヶ峯2-77光輝病院内

(有) 悠 悠

代表取締役 徳山 世雄

☎(092)623-2667

〒812-0851

福岡市博多区青木1-11-27

これが自分が望んでいた旅であると確信した

第四班 湯下班 ほんた たけとし
本田 武敏氏

今回、慰霊訪問の旅に参加を決めた一番の理由(わけ)は実兄の一言でした。「日本人としての心を持って一生を全うするなら一度、慰霊訪問の旅に参加して、台湾に根を下している日本精神、人を思う心、今、何を為すべきかを知る良い機会だと思うよ」との会話からでした。観光旅行とは違うとの認識は持っていましたが、初日、海明禅寺においての慰霊式で小菅団長の祭文を聞き、実に素晴らしく、清々しく魂を洗われる感動を受け、この旅は今迄の研修クラスじゃない、心して参加しようとの思いから、これが自分が望んでいた旅であると確信したものでした。

日本人としての自覚、愛国心、誇りを今の日本は学校教育でどこまで教えることが出来るのか不安です。命を懸けて教育し、台湾の地で先人達が日本精神を示していたことをこの旅で知り得、日華(台)の絆の強さを見聞することが出来たことは今後の私の人生に大きく影響を及ぼす事に間違いありません。人は情で繋がれています。戦争は悪です。しかし、最悪の中から真の強さや誠が生れることも事実です。台湾の方々の遅しさを目の当りにし、見習う事が多くありました。

五日間という短い日程ではありませんでしたが密度の濃い充実した毎日でした。今回、小菅団長から国家とは何か、どうあるべきかを拝聴し、改めて、日本精神、日の丸の下で武士(もののふ)として大義や正義の為に生き、死を受容した民族が尊敬され畏敬される真の文化を忘れてはならないと再認識させられま

した。

半醒半睡の自分を省みて・・・

第四班 湯下班 たかまつ のぶあき
高松 信秋氏

臺灣の南端鵝鑾鼻岬に来て、巴士海峡を望み、防人達武士の永久不変の志を胸に戦った御霊に頭を垂れ、異体同心の気持ちでいる自分に気がつき、^ゝ日臺の生命の絆死守せむと吾日本の一角に起つ^ゝと、この言葉に奮迅し、今迄半醒半睡の自分を省みて、なんとつまらない人生を過してきたのか惻隠の情にかられている。

日本人の一人として臺灣の人々に頭が垂れる思いである。先人達の偉業に触れ、各々が、旗幟鮮明の気持ちであった事が窺われる。又、歓迎会に於ても、話を聞いていくうちに刎頸之交をもって、一生いや永代をもって付き合わねばならないと心に止めおく！

黄文雄先生や臺日文化經濟協會の會長、黃天麟先生の何気なくおっしゃっていた言葉が一葉の落葉のごとく蓄積され栄養となっていく様な気にもなった。今、あの片言隻語をかみしめてみると、なかなか含蓄に富む言葉だ。団長先生の奏上文に於ても、韓国や中共の様な日本に対する不倶戴天の気持ちではなく、昂包容力のある力の溢れた言葉に共感をする次第である。

^ゝ吾、日本の一角に起つ^ゝこの言葉が再び胸の昂と共に湧いて来た。

先達の偉烈を学び、慰霊の誠を捧げ、日台友好に寄与できれば

第四班 湯下班 いしづか としお
石塚 俊雄氏

今回初めて台湾慰霊訪問の旅に参

加して、団長以下有志の方々の慰問研修の成果を、たった一回加えさせて貰っただけで、その豊かに稔った果実だけを食べさせて頂き、心から感謝致しております。ここまでに築きあげられた台湾の各界の人々との友誼は、かつての日本統治世代の高齢者から若者達へ引き継がれつつある現状を実感しました。今後更に大きく進展するものと確信した次第です。

私事ですが、永年ロータリークラブに参加し、色々な奉仕活動を通じて少しでも人のためになればと微力を尽くしておりますが、同じクラブに三～四人日本会議会員が居り、二年前に誘われて私も入会しました。今回の訪問団の中に多くの日本会議関係者を拝見し、大いに啓発されました。

小菅団長の御熱意と御見識には、完全に圧倒されました。今後共、この企画を更に充実していけるためにも、健康に留意され、我々を導いて下さい。私も今後事情の許す限り参加し、先達の偉烈を学び、かつ慰霊の誠を捧げ、併せて日台友好に寄与出来たらと思っています。

国歌を斉唱しながら 幾度も涙した

やましりゅうじ
第五班 長嶺班 山城 竜治氏

私は富原さんからの誘いで初めて慰霊訪問の旅に参加させていただくことになりました。参加するにあたっては事前に旅の葉を読み合わせ、行動指針や参加にわたっての注意を確認しました。また、出発の前日には福岡入りし、富原さんに台湾や慰霊訪問団について教えてもらいました。

今回の旅では、小菅団長や参加者

●ご協力ありがとうございます。

松俵建設(株)

取締役会長 松俵 義博

☎(0948)42-1033

〒820-0205 福岡県嘉麻市岩崎1554-10

台灣台日海交會

會長 周 良仁

☎(04)2529-5350

〒420-0050

台中市豊原區育英路24巷2號5樓

の皆様のこれまで学ばれてきた知識や日本人としての熱い思い、紳士的な態度、そして台湾の皆様私たち日本人に対する親身に温かな対応に感激させられました。また、訪問先の各神社、お寺、廟などでの慰霊式、献花式では国歌を斉唱しながら、実際の現場に立ち、何故だか涙する場面が幾度となくありました。それも事前にいただいた学習資料や小菅団長やガイドの方から正しい日本の歴史を教えていただけたからだと思います。

その他にも昼食会や夕食会でお会いしたことのない素晴らしい団員や台湾の公的機関の方々、各団体や地域の方々と交流でき、私にとって貴重で有意義な充実した時間となりました。

その中でも、私はバンシー海峡での献花と挨拶の機会をいただきました。その時、何故だか胸の中から込み上げてくるものがあり、それを素直な気持ちで話すことができました。貴重な体験でした。

私たち日本人にはとても素晴らしいご先祖様がいました。世の中のため、多くの人々のために役立てるように命ある限り使命感をもって生き抜いた人たちがいました。その思いは死の直前まで、いや死してまで続いていました。それは今でも台湾の地や台湾の人々、そして私たち日本人へ確かに引き継がれていてとても感動しました。

今回の旅は、私に今までどのような思いで生きてきたのか、またこれからどのように生きていくのかを考えさせられ、教えていただきました。日本人として生まれてきたことに感謝し、誇りを持つことができました。

まだ見ぬ未来へつなげる

いわもと
第五班 長嶺班 岩元 みさ氏

自分は平成生まれです。当然ながら平成の時代しか生きたことがありません。そんな平成も天皇陛下のご退位により、次の新しい元号へと変わり、幕を閉じます。平成を振り返るという特集をテレビでも多く見かけるようになりました。新しい発明や開発により、便利な世界になっていく様子や日本中が熱狂したもの、地下鉄サリン事件などの悲しいニュース、ガングロメイクや、ルーズソックスなどの流行したものの映像が次々と画面上で流れていきます。心の底から突き動かされるような、涙があふれるくらいに感動するような、後の世代まで語り継いでいきたい内容のものはありません。

そんな時、台湾慰霊訪問の旅に初めて参加しました。台湾の方々のために命を賭けて誠心を尽くした日本人と、その日本人を何年、何十年経っても師と仰ぎ、語り継いでいる台湾の方々、そしてその台湾へ毎年、必ず同じ日に出向き、心をこめて手を合わせる慰霊訪問団を目の当りにし、これが歴史として、人として最高の在り方だと感じました。こうして、語り継がれ、世代を超えても繋がっていくのは、何をしたか、何を発案したかだけでなく、その中に先人の思い、語り継ぐ人々の思いが入っているからだと思います。それはとても素敵なおことです。昭和から平成、平成からまだ見ぬ未来へと移りゆく日本ですが、昔の日本人や台湾の方々にはどのように映るのでしょうか。自分は、日本人として誇りを持ち、ひとつひとつに思いを込めて行動します。若い世代の人も、是非、台湾慰霊訪問の旅に参加して感じて

欲しいです。

慰霊・交流の旅

ほり あきひこ
第六班 岩崎班 堀 明彦氏

「日本会議」の講演会での配布資料で、訪問団のことを知り参加しようと思いついた。

今回の旅は、大東亜戦争で戦死した方々の慰霊と親日派の台湾の方々との交流の旅であった。この旅を通じて、大東亜戦争の苦しくとも陸に海に空に勇戦敢闘した父祖の戦いに想いを馳せるとともに、教育や治水事業等の近代化インフラ整備など、日本の統治が台湾の人々に正当に評価されていることを直に見聞することができた。

この旅を通じて新たに知り、また確認できた点を要約すれば、次の四点となろう。

(一) 日本人を祀る社寺が今も多く存在していること(二) 台湾の軍隊の近代化に日本人軍事顧問団が大きな足跡を残していること(三) 日本統治時代から台湾の近代化の歴史が始まったとの認識が広く共有されていること(四) 「日本精神」が望ましい人間の在り方を指す言葉として今も生きていること

これらは基本的に日本統治時代の良き思い出・遺産と言うべき事柄で、当時の先人達の台湾愛と献身に対する台湾の人々の共感と感謝の思いが伝わってくる。このような日本人の情熱と使命感はどこから来るのか。その根底にあるのは、日本人の一所懸命の一念さ、「武士道精神」ではなかったか。統治者は統治者たる職分と責任、農工商業者はそれぞれの職分を果たすことで全体として平和で安定し、文化も花開いた幸福な時代を築いてきた。武士道

●ご協力ありがとうございます。

(株) 中部鋼材

取締役会長 富原 浩

☎(098)938-1318

〒904-0012 沖縄県沖縄市室川2-6-7

(株)中野建築事務所

代表取締役 中野 雅彦

☎(092)915-8771

〒816-0873
福岡県春日市日の出町5-38

精神を持った台湾総督府の良質な役人が渾身の力を揮って台湾の近代化に取り組み、その成果を台湾の人々が感じ取ったからこそ、その記憶が脈々と受け継がれて今日の親日台湾を築き上げたのではないかと思う。

八田興一が十年かけて作り上げた烏山頭ダムと、地球半周分の灌漑施設(水路)が台湾最大の穀倉地帯を誕生させたことは広く知られているが、神として祀られている日本人、顕彰碑のある六士先生も、一身を顧みず職責に殉ずる日本人の精神(日本精神)の発露として、台湾の人々の心に訴えかけたのであろう。

森川巡查ありがとうございました

ほり すみお
第六班 岩崎班 堀 純生 氏

平成二十九年十一月二十二日から二十六日までの五日間、初めて参加させていただきました。団全体の統制責任者に任命され、旅の安全と交通整理、団員の誘導、連絡係りとして大役を果たし、小菅団長の指揮の下、安全で事故なく無事に帰国できて安心しました。これも偏に参加者の皆様の協力と役員、そして台湾の皆様の温かい厚意と心づかいの賜と心から感謝申し上げます。

二日目、嘉義の富安宮で「義愛公」として神様となって祀られている日本人警察官森川清次郎巡查の制服姿の木造と対面してはじめて警察官の魂を知りました。小菅団長より説明を聞き、更に文献資料を拝見して、彼の台湾での功績を知りました。日本人警察官として、治安維持のため地域住民の皆様に自らの命をかけて救い、助けて職務を果たした森川巡查は、現在も台湾の皆様に

神様として尊敬されています。私も元警察官として団員を代表し、「義愛公」森川巡查に哀悼の意を表し冥福をお祈りし、式辞を述べさせていただきました。日本に帰国して森川巡查の警察精神を日本の現職警察官に継承したいと思っています。

実は、二十二日福岡空港から桃園空港に到着後、航空機の座席前方の機内ボックスに、小型ビデオカメラを置き忘れ紛失したと諦めていましたら、帰国の二十六日の昼頃、航空会社から発見したとの朗報が入り、空港でビデオカメラを引き渡されホッとしました。

なぜ五日間も所在不明で発見できなかったのか不思議でした。この時、私は直感的に二日目の富安宮の「義愛公」森川巡查の霊が航空会社に搜索を依頼して発見してくれたのではないかと思います。森川巡查、ありがとうございました。

思った以上に感動の 連続だった台湾慰霊の旅

たけだ まりこ
第六班 岩崎班 武田 真理子 氏

数年前より台湾特別講演会に時々参加させて頂き、いつかはこの台湾訪問の旅に参加したく思っていました。とりわけ台北駐福岡経済文化辦事處處長の戒義俊先生が度毎にお話しされる「台湾に残る日本精神」、「海の彼方のニッポンを訪ねて」に引かれ、この目で見てみたいと思ったのでした。

そして、それは思っていた以上に感動の連続でした。台湾は私にとって初めての地でしたが、訪問先で出会った方々は皆さん温かく大らかに迎えて下さり、行く先々でお心のこもった歓待を受け、言葉に表せない感動と共に何か

身の置き場のないような感覚になったものでした。日本が統治していた時代の日本人が誠の心をもって各々の任務に当たっておられたその様々なエピソードを台湾の方々は、今に至るまで言い伝え、顕彰してくださっている。昔の日本人の誠心に台湾の人々は今も誠心で応えてくださっています。

最近読んだ本の中に、大東亜戦争で日本人が戦ったお蔭でアジアの国々は独立できた、という主旨の本が、しかも旧敵国のアメリカやイギリス人の手によって書かれたものがありました。今回、確か最終日の昼食会での台湾の老紳士のご挨拶の中に、暴れん坊の日本のお陰でアジアの国々は独立できたのですよ、という件があり、不思議な感動を覚えました。

また今回、本来の目的である、元日本人であった台湾人同胞三万三千余柱の英霊顕彰と慰霊祭を始め、各地での慰霊行事に参列する事ができ、とりわけ最南端の美しくも強風吹きすさぶパシー海峡で、今も二十万余の御霊が眠っておられることに唯々驚き、慎んで感謝の祈りを捧げる他ありませんでした。そして改めて多くの尊い犠牲の上に私達は生かされていることを思いました。

台湾で学ぶことの意義

たかはし ゆきひさ
第八班虫本班 高橋 幸久 氏

私は第十三回台湾特別講演会に参加したことが切っ掛けで、台湾を知ることとは日本を知ること、日本を取り戻すことであると考えようになり、今回初めてBプランで参加させて頂きました。

十一月二十四日の朝の福岡空港での出発式では、国際線ロビーで国旗を

●ご協力ありがとうございます。

(株)エース・コーポレーション

代表取締役 沼田 真清

☎(03)3408-0523

〒107-0061 東京都港区北青山2-7-18第1真砂ビル5階

(株)栄電舎

取締役 飯笹 実

☎(0942)38-1211

〒830-0047
福岡県久留米市津福本町南都留2348-8

掲げ、君が代を斉唱してから飛行機に乗り込みました。少人数ながらも日本国を代表している事を自覚しなければと気合が入りました。台湾に来るのは初めてでしたが、ガイドに初めて来たことを告げると「幼稚園児だな」と言われ、懐かしい響きかしました。これは「まだまだ勉強不足」「これから勉強なさい」という言い回しですが、私が子供の頃の日本に戻ったような気がしました。

二十四日夜の交歓会では台湾陸軍病院に従事されていた看護婦の方々から流暢な日本語で話し掛けて頂き、当時は間違いなく日本人としてご苦労された事が実感でき、とても感動しました。また、亡き母(大正十三年生)と話している様でした。今回の最も重要な目的は大東亜戦争で散華された台湾人同胞三万三千余柱の英霊顕彰と慰霊祭参列です。

二十五日朝、宝覺寺の日本人墓地で国旗を掲げ、君が代を斉唱し、線香を上げました。次に原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭を靈安故郷碑の前で、台湾在住の元日本軍人軍属、元従軍看護婦の方々と一緒にを行いました。この方々が、遠い台湾の地でかつて日本人であった事を思うと、日本が戦争に負けて台湾と別れた事は大変な悲劇です。また、日台の絆を絶ち、日台を弱体化し、中国共産党を強化する世界的な戦略に乗せられてしまった事が残念でなりません。昼は台湾台日海交会による歓迎昼食会でした。遠い親戚に会うような大変心温まるものでした。

次はバスで新竹にある台湾の靖國神社と呼ばれる南天山濟化宮に向かいました。宮の中には四十年前に製作された四万柱の「靈璽」位牌が祀られていました。

二十五日の夕食は、黄文雄先生による歓迎夕食会でした。台湾の著名人を交えての夕食会であり、台湾の問題は日本の協力が最も重要であることも教えて頂きました。

二十六日は台北の芝山公園の六士先生の墓所に参拝しました。「身に寸鉄を帯びて土民の郡中に這入らねば、教育の仕事というものは出来ませず」という在り方で、教育に当り、台湾統治の初期、明治二十九年元旦に「死して余榮あり、実に死甲斐あり」といって地元の土匪に惨殺された六人の先生の墓所です。当時の日本人の気高さに圧倒されます。このように、戦前の先人を慰霊する事を日本人は誠心から出来ているのでしょうか。台湾の方々から今の日本人は学ばなければなりません。

「日台の生命の絆 死守せむと吾日本の一角に起つ」という慰霊訪問団の意思を継続し、英霊を顕彰することは、日台の生命の絆だけでなく、我が国の子孫への絆も死守することになることを、この台湾慰霊訪問の旅を通じて教えて頂きました。

清しい台湾慰霊訪問の旅

ふるさこ たみお
第八班 虫本班 古迫 民雄氏

先ずこの様な企画を優しさ溢れてしかも整然と実行され、十九年も続けられていることに驚きと尊敬の気持ちで一杯です。旅の途中では団長の分かりやすい解説のお陰で「すら一つ」英霊の方々に頭を垂れてお祈りすることが出来ました。

十一月二十五日、宝覺寺での日本人墓地では日本国の名誉をかけて戦って下さいました英霊の方々に対して只々、「有難うございました」「有難うご

ざいました」とお祈りいたしました。靈安故郷碑前での慰霊祭では儀仗兵が哀調のあるラッパを吹きながらの整然とした行進のあとの日台の国旗掲揚、国歌斉唱、旭日旗掲揚で開式、周良仁台湾台日海交会長の主催者挨拶に続いて、小菅団長が挨拶を述べました。その後主催者代表、小菅団長の祭文奏上が行われましたが、一連の儀式は私には美しい絵巻物を見ているように感じられ、英霊の方々はどんなに喜んでいただこうでしょう。

南天山濟化宮では献花式の後、四万体の靈璽位牌に遭遇した時は度胆を抜かれました。思わず入口から順番に一つづつ自然に頭を垂れて日本の為、台湾人の誇りの為に散っていかれた英霊に對し尊敬の念と感謝の祈りを捧げました。清清しく気持ちよかったです。芝山巖では暴徒たちにより殺されましたが、日本教育の最初のとっかかりを作ったと言われる六士先生の慰霊式を行いました。

六士先生の難にもかかわらずその後の教員募集には次々と志願して台湾に向かったといえます。強い「志」が勇気を生むのです。時代背景とはいえ明治時代の方々の情熱と勇氣と度胸にはほとんど感心します。

三日間のそれぞれの夕食会、昼食会では台北駐福岡經濟文化辦事處處長の戎義俊先生が記念講話で話された「日本人の心」を持たれた台湾の方々がたくさん居られるではありませんか。もうそれだけで大感激です。二度、三度、いえいえ毎回、再会される方々の喜びはよりひとしおだったと思います。

皆様のお陰で中身の濃い旅になりました。

(株)ホリスコーポレーション

代表 堀 純生

☎(092)874-1994

〒814-0161 福岡市早良区飯倉4-20-40~105

光志興産有限公司

代表取締役 松俵 茂子

☎(0948)42-6660

〒820-0203 福岡県嘉麻市平607-1

西日本ベアリング販売協会

会長 半田 誠

☎(093)571-0481

〒803-0861 北九州市小倉北区篠崎3-7-18 九州ベアリング内

日華(台)親善友好慰霊訪問団 台湾支部

支部長 黄 明山

☎(07)751-4906

〒830-0092 高雄市鳳山區南正一路2巷11弄5號

❖公的支援なき公的事業に国民の皆様のご理解とご支援を❖

台湾特別講演会を開催するに当たりご物心両面にわたって
多大なご支援を戴いた皆様に心から御礼申し上げます。

《特別協賛 協賛 広告協賛 後援》

台北駐福岡経済文化辦事處 九栄会 山口県日台交流協会 松俵建設 関家具 中部鋼材 エース・コーポレーション 浜崎理想瓦製造所 台湾新亜旅行社 九州不動産専門学院グループ 福岡教育連盟 美祢市観光商工部 H A S 国際不動産鑑定所 悠悠 大道印刷 栄電舎 柳原皮膚科クリニック 中野建築事務所
ホリスコーポレーション 西日本ベアリング販売協会 光志興産 PiPaRa-ピパラ 安永行政書士事務所 パシフィックキャピタルジャパン 心の教育研究会
産経新聞九州総局 オイスカ西日本研修センター 福岡市議会日台友好議員連盟 日台友好筑紫野市議会議員連盟 日本会議地方議員連盟 日本会議福岡 台湾在日福岡留学生会 福岡縣神社廳 福岡縣護國神社 英霊にこたえる会福岡県本部 福岡県海友会 福岡県郷友連盟 水交会福岡支部 海原会 甲飛喇叭隊第11分隊 大野城市国際交流協会 福岡県中華總會 九州台日文化交流協会 日台交流をすすめる会 山口県日台文化経済交流会 福岡県モラロジー協議会 日本協議会福岡県支部 日本青年協議会 教育研究会未来 スタジオ日本日曜討論(番組を支える会・日本人講座) 日本時事評論社 エバー航空 紅乙女酒造 フクニチ住宅新聞社 東海新報社 岩屋城史の会 八重山日報社

《慰霊祭主催団体 現地協力 交流団体》

台中・台湾台日海交會 台中・台湾中日海交協會 台中・寶覺寺 高雄・保安堂 屏東・東龍宮 恆春・潮音寺 台南・海尾朝皇宮 台南・飛虎將軍廟 嘉義・富安宮 新竹・勸化堂 新竹・濟化宮 樹林・海明禪寺 新北・烏來高砂義勇隊紀念協會 台南・嘉南農田水利協會(烏山頭水庫、八田與一紀念館、八田與一紀念公園) 台北・台日文化經濟協會 台中・台灣海軍ラバウル會 台南・奇美基金會(奇美博物館) 台南・鹽水國民小學

《公的機関》

台北・中華民國總統府 台北・中華民國外交部 高雄・高雄市政府 台中・臺中市政府 台南・臺南市政府 台北・國民革命忠烈祠

《個人協力》

永濱浩之	湯下雅俊	津田建一	木下 修	江島一至	原田種雄	福田章枝
吉弘淺子	山本駿一	大山 猛	柴崎一郎	永留照子	稲貝稔夫	牛房良嗣
高橋幸久	塩山敏彦	馬込 彰	藤田喜久	小串善行	小牧徹志	森 保憲
真栄田 強	森 敬恵	松永達始郎	吉弘逸子	山室俊武	石川秀久	原田泰宏
兵頭和郎	田中孝夫	竹中 健	秦 友喜	倉田光男	宮原 泉	古迫民雄
大石克巳	武田真理子	中山 茂	岩本宣善	佐々木朗子	白水キミ子	山本 正
永濱武司	堀内恭彦	石原祐教	大石 憲	福田昂明	坂瀬秀之	山下修剛
佐護美和子	深水良洋	森田哲也				

(順不同・敬称略)

《企画・運営》 第16回台湾特別講演会実行委員会

(注：法人組織名は割愛させていただきました)

●ご協力ありがとうございます。

台湾海軍ラバウル會

會長 王 春茂

☎(04)2436-6179

〒406-0047
台中市北屯區旱溪西路3段
286巷37號

行政書士 安永事務所

行政書士 安 永 和 久

☎(092)555-3241

〒818-0138 太宰府市吉松4-38

(有)PiPaRa -ピパラ-

代表取締役 森 眞 一

☎(090)8668-6782

〒816-0855 春日市天神山4-27

パシフィックキャピタルジャパン(株)

代表取締役 新 開 崇 司

☎(092)711-9030

〒810-0023 福岡市中央区警固3-5-3

やる気を引き出す

『心の教育研究会』

教育アドバイザー：前田 久美子

連絡先 ☎(090)5563-7756

知られざる「神蹟の遺跡」

芝山巖精神が継承された鹽水國民小學

芝山巖事件から僅か3年で創立

鹽水國民小學の学校沿革を見てみると、現在の鹽水郵便局の場所に明治31年(1898)に嘉義國語傳習所鹽水港分教場として設立され、同年10月には鹽水港公學校として創立されている。

六士先生の芝山巖事件が起こったのが、明治29年(1896)1月、3月には第1次の講習員の募集がなされ、45名が4月に台北に到着。4月15日から7月1日の卒業式まで芝山巖において2ヶ月半の講習訓練を受け、その後、台湾全土の14箇所の國語傳習所に講習員として散っていた。そして明治31年(1898)に國語傳習所は公学校となった。この間、わずか3年である。台北の士林で六士先生が命を賭けた教育の礎が、この南の地まで確立されているのだ。そのため、第1次の講習員は全員師範学校の卒業生であり、小学校教育の経験者(現職の教員・校長がほとんど)だった。(45人の合格者に芝山巖事件の詳細を語り、希

望があれば辞退しても良いと面接したが、だれ一人辞退するものは無かった)

鹽水港公學校は大正10年(1921)に鹽水公學校、昭和16年(1941)には鹽水國民學校と名称を変えている。ここまでが日本統治時代の校史である。従って、今年、平成30年(2018)で120年の歴史をもつことになる。構内にはその歴史を象徴する樹齢100年以上の黒板樹(コクバンノキ＝台湾では乳木)がある。

鹽水國小神社

校内には小さな神社がある。この神社も他の校内神社と同様に児童の敬神観念を涵養せしむるために保護者会、職員および一般の有志からの寄付により、建築費500円をかけて建立[昭和11年(1936)3月鎮座]され天照大神を祀っていた。戦後は取り壊され孔子廟に建て替えられ「大成殿」に改名され、孔子の教育精神を称える場所となっていたが、その孔子廟も荒れ果てた形で

校庭の隅に置き去りにされた。

平成20年(2008)、行政院文化建設委員会と台南縣政府の共同出資により、神社が復元され、鳥居、参道、石燈籠まで整備された。これを機に「鹽水國小神社」という名になった。

訪問団が初めて訪れたのは第10次で、この小学校とゆかりのある何怡涵・陳清子ご夫妻(新營在住)のご紹介だった。鹽水國小神社が完成した時で、劉信卿校長はじめ多数の教職員の歓迎を受けた。その後の第11次、12次での訪問の際には、3ヶ月前から準備していたという高学年の生徒の躍動的な龍の舞、低学年による太鼓の演奏、幼稚園児による鼓笛、タンバリン演奏など子供達から心尽くしの歓迎を受けた。また第14次の訪問では、盧彦賓校長はじめ子供達に歓迎され、校長先生が得意の横笛で「揚げば尊し」を演奏して下さり、その美しい音色に魅了された。





臺灣日本關係協會 台日文化經濟協會 表敬訪問

平成 29 年 11 月 22 日（水）、海明禪寺での慰霊式を終えた一行は、中華民国外交部の臺灣日本關係協會主催の歓迎夕食会に臨みました。

昨年 4 月まで福岡の辦事處で

副領事をされていた李恵珊科長から今回、予期せぬ吉報をいただいた。それが、臺灣日本關係協會主催の晚餐会でした。「縁は異なるもの 味なもの」といわれますが、平成 25 年の 3 月にホテル日航

福岡で行なわれた、福岡日華親善協会主催、台北駐日經濟文化代表處の沈斯淳代表歓迎会で名刺交換したのが張淑玲氏でした。その張氏が、今回女性では初の臺灣日本關係協會秘書長に就任されました。





あいにく張秘書長は公務で出席ができませんでしたが、代理の謝延淙参事が歓迎の祝意を述べられました。小菅団長が答礼の辞を述べ、李恵珊科長が挨拶されました。李科長は、福岡辦事處在任中に多くの訪問団行事に参加した想い出を語り、訪問団の姿勢を賞賛されました。会食では外交部（外務省）特注のワインまで振舞われ、まさに国賓級の扱いでした。

台北駐日經濟文化代表處を歴任さ



れた張淑玲氏の指導のもと、日本と台湾の末永い友好関係が維持されることを願っています。

最終日の11月26日（日）、士林の芝山巖で六士先生等の慰霊式を行なった後、台日文化經濟協會主催の歓迎昼食会に臨みました。日曜日の昼間にもかかわらず、黄天麟会長をはじめ、数名の幹部の皆様に歓待していただきました。

日本各地にある「日華（日台）親善協会」と「台日文化經濟協會」は姉妹関係を結び、国交が断交してからずっと、政界、財界、産業界、そして民間の各レベルでさまざまな交流活動を続けています。

慰霊訪問団は、第8次から毎年、歓迎会にご招待戴き、多くの方々との交流の機会を与えていただいています。

黄会長の歓迎、小菅団長、横尾秋洋顧問の答礼の挨拶の後、会食となり、各テーブルに配席された協会幹部の皆様を交え、次々と運ばれてくる美味しい海鮮料理を囲み、楽しく歓談し親交を深めました。日曜日にもかかわらず私共の行程に合わせ歓迎会を催していただいたことに心から感謝すると共に、今後益々友好の絆を強固なものにしてゆかねばとの思いを新たにしました。

第19次台湾親善友好慰霊訪問の旅

結団式・壮行会～帰朝報告会・新年会

平成29年度「第19次台湾慰霊訪問の旅」の結団式・壮行会には、戎義俊・台北駐福岡経済文化辦事處處長ご夫妻、鬼木誠・衆議院議員議員、横尾秋洋・筑紫野市議會議長（訪問団顧問）、竹下尚志・春日市議會議員、矢ヶ部大輔・福岡教育連盟執行委員長、柳原憲一・元西日本台湾学友会会長らの来賓をはじめ、慰霊訪問団の役員、旅の参加者ら約70人が参集、慰霊訪問の旅の成功を祈念するとともに日台の友好親善の絆を深めた。

第19次訪問団には福岡県を中心に、九州・沖縄各県をはじめ新潟県や東京都、千葉県、大阪府、奈良県、香川県など全国各地から62人が参加、台湾各地を慰霊訪問し、終戦後も台湾各地に息づく日本精神を学び、日台の魂の交流を深める。

午後3時すぎから始まった結団式では、日台両国の国旗敬礼、国歌斉唱に続き、大東亜戦争で散華された台湾人元日本兵軍人軍属ならびに慰霊訪問事業に尽力し、志半ばで亡くなられた方に対して黙祷を捧げた後、結団式に先立ち戎義俊處長の記念講話「『日本精神』—日台を結ぶ目に見えない絆」が行なわれた。

戎處長は、「台湾の日本語族とは日本統治時代の50年間に、日本人として生まれ、日本語で教育を受けた人たちのことで、彼らは当時、日本人の教師から「勇気」「忠誠」「勤勉」「奉公」「自己犠牲」「責任感」「遵法」「清潔」といった日本の精神を学び、大きな影響を受けて育った。その精神は後に、自分たちの素養や気質を表す言葉として『日本精神』と呼ばれるようになり、長い間、台湾である意味で純粋培養されてきた」と述べ、



更に「蒋介石政権下の台湾では、中国や韓国のように反日教育が行われた。李登輝總統は、日本の統治時代も含め台湾の真実の歴史を学ばせることによってこれまでの認識を改め、主体性のある民主国家、台湾のアイデンティティの確立を図るため『認識台湾』という新しい教科書を編纂した。

一方で、反日教育が行なわれる中で、日本精神の良さは父母や親からの愛情とともに『口耳相傳』、口伝えて継承されてきた」と語り、最後に「台湾には、日本が今こそ学ぶべき『正しい日本史』がある。中華民国台湾と日本両国が共通して持っている日本精神こそが日台両国の目に見えない強い絆である。日本の皆さんにはぜひ、日本精神、大和魂を思い出し、取り戻して欲しい。そして、日本の若い世代の心の奥底に眠っている日本精神を確実に未来に繋げて頂くようお願いする」と結んだ。

次いで結団式に移り、主催者を代表して小菅団長が挨拶した。

「明治の日本では軍人勅諭や教育勅語を暗誦した。軍人勅諭には忠節、礼儀、武勇、信義、質素という5つの徳目がある。これが明治の日本人に染み付いた文化だった。だから台湾に渡った日本人には公徳

心しかなかった。日本人の所作、勇気、武士道精神が台湾で口伝えて伝承されてきた。明治博物館が国家として存続している。明治の扉を開いて待っている台湾へ私たちはこれから勇躍出発します」と力強く挨拶した。

休憩を挟んで壮行会が開催され、開会の挨拶で、田中道夫氏は台湾の蔡焜燦氏の「日本人よ胸を張りなさい、そして自分の国を愛しなさい、私は死ぬまで日本と日本人にエールを送り続ける」という「愛日家の遺書」の一文を力強く読み上げ、「海の彼方のニッポン」台湾を皆で元気に訪問しようと呼びかけた。

壮行会の席上、沖縄支部支部長の富原浩氏は、沖縄メディアとの言論戦に挑むラジオ番組「沖縄防衛情報局」の活動を報告、沖縄から参加した「情報局」主任の我那覇真子氏を壇上に呼び紹介した。

同氏は、琉球新報、沖縄タイムス2紙の攻撃があるなか沖縄の魂、言語空間を取り戻す戦いの現状を報告、小菅氏をはじめ壮行会出席者らの支援に謝辞を述べた後、「今回も慰霊訪問団に参加して、日本精神を台湾の方から学び、日本が強くなるためにいろんな勉強をさせて頂きたい」と語った。

最後に横尾氏が訪問団に参加するようになった経緯を語るとともに、「松俵氏のような方の財政的支援があって慰霊訪問の旅が成り立っている」ことに謝意を表した閉会のことばを述べ、閉会した。

第19次「台湾慰霊訪問の旅」の帰朝報告会・新年会は平成30年1月20日、福岡市天神の平和樓本店で開催された。今回の慰霊訪問の旅は、小・中学生も含め、これまで最多の62人が参加した。

台中市の宝覺寺やバシー海峡に面する最南端の鵝鑾鼻(ガランピー)岬など台湾各地を訪問し、原台湾人元日本兵軍人軍属および日本人軍人・軍属の慰霊式や慰霊を行い、各地で祭文を読み上げた。また、台北では台湾日本関係協会が、これまでの訪問団の労苦に報いるため、外交部の職員も出席して盛大な歓迎会を開催、国賓並の厚いもてなしを受けた。そして、現地の人たちとの交流を深め、台湾の歴史や文化を直接学ぶことを通じて“認識日本”を深める感動の旅となった。

報告会に先立ち、今夏、定年のため35年に亘る外交官生活に終止符を打ち、帰国する戎處長が「明治維新150年と台湾」と題し記念講話を行った。

戎處長は、始めに台湾と最も密接な関係にある明治維新について、「日本の先人たちは150年前、明治維新という大変革を成し遂げ、欧米列強に並ぶ近代国家を作り上げた。“広く会議を興し万機公論に決すべし”という『五箇条の御誓文』を胸に軍人から一般国民まで心をつなげて積極果敢に既成概念を打ち破り、国境を越えて日本精神を発揮した。こうした歴史を思い起こすことは、次の150年に向かう入り口に立つ日本国民に大きな力を与えてくれるに違いない。明治維新の息吹を平成

の今の日本国民に伝えたい」と話し、①明治維新に対する賛否両論、②台湾と明治維新の関わり、③明治日本の近代化の台湾への拡散、④宜蘭を救った西郷隆盛の長男・西郷菊次郎、⑤今、我々は明治維新を再評価すべきの5点について語った。

最後に結論として日本がこれまで経験してきた大変革の2度の開国、第1の近代化を成し遂げた明治維新、第2の大東亜戦争後の経済復興に次ぐ第3の開国として、安倍晋三首相が進める憲法改正と経済改革を『安倍維新』と呼びたい。20数年に及ぶ衰退から完全に立ち直り、日本の開国・維新が実現することを支援していきたい。日本と台湾がともに手を携えて21世紀の未来を切り開き、飛躍的発展を成し遂げるよう祈念する」と、日本に熱烈なエールを送った。

第2の帰朝報告会で、小菅団長は今回の旅の特徴について次の5点を挙げた。

- ①過去最多の62人が参加、大型バス2台分乗の陣容となった。しかも小学6年生と中学2年生の2人が参加、感動を共有できた。
- ②バシー海峡に面する最南端の鵝鑾鼻(ガランピー)岬を訪問、海峡で亡くなられた日本人軍人・軍属に花束を捧げ慰霊を行った。また海峡戦没者慰霊施設潮音寺(恒春)を慰霊訪問した。
- ③各慰霊施設や参詣した全箇所て祭文または祝詞を読み上げた。
- ④台北で台湾日本関係協会と中華民国外交部が盛大な歓迎会を開催、国賓並のもてなしを受けた。
- ⑤今回から資料や桀、感想文集をより記念に残るものにするために製本した。

更に、1月中旬、台湾海峡を挟む航空路線を中国が一方的に現状変更したことについて台湾当局が反発、戎處長の要請を受け抗議の記

事を産経新聞がいち早く掲載したことと言及、「台湾も日本も本当に困ったときにお互いに一肌脱ぐ関係、これが大事で、それを先行的に実行しているのが慰霊訪問団だと思う」と語り、今秋の第20次の訪問先には、戎處長が提案した西郷菊次郎が庁長を務めた宜蘭を加えることを表明、日台の魂の交流と日本精神を取り戻すために旅への参加を呼びかけた。

来賓を代表して戎處長が再度挨拶、35年の外交官生活の中で日本全国各地の団体や人との交流の中で、慰霊訪問団ほど献身的に台湾との交流に熱意を持って取り組んでいる団体はないと述べた。また、明治維新150年の節目の年を迎えて「明治維新を参考にして、私たち一人一人がどう生きていくべきか皆さんと共に考え、一緒に前進していきたい」と語り、第20次の慰霊訪問に帰国後の台湾からは是非参加したいと表明した。

その後、団員への記念のアルバムの贈呈、参加者全員揃っての記念撮影となった。続いて開かれた新年会では、訪問団副団長の原田泰宏氏が祝舞として、武士が僧形の遊芸人に扮して親の敵を討つという謡曲の「放下僧」を披露、新春らしい雰囲気盛り上がったところで乾杯、歓談に移った。

慰霊訪問の旅の思い出話に花が咲く中、姉妹で参加した中学2年生の茅野櫻さんと、小学6年生の茅野慧さんが団員感想発表を行なった。小中学生とは思えないしっかりした感想発表に涙を誘われ、会場から感嘆の声があがった。

その後、訪問団沖縄支部長の富原浩氏の万歳三唱、訪問団顧問の横尾秋洋・筑紫野市議会議長が慰霊訪問団の益々の発展を祈念、20次へ向けた閉会のことばで中締めとなった。

日台の魂の交流 第15回台湾特別講演会

日台の魂の交流 南京攻略80年

『「一つの中国」の否定とグローバリズムの挫折』

ー日本は台湾との関係をいかに構築すべきかー

台湾特別講演会は、平成15年6月から実施されており、今年で15回目となる。今回は、支那事変で昭和12年12月13日に日本軍が行なった南京攻略にちなみ、タイトルに「南京攻略80年」の文言が付された。

講演会は第1部で、文明史家の黄文雄先生による基調講演『「一つの中国」の否定とグローバリズムの挫折』。第2は、パネルディスカッションが行なわれ、『強力な台湾アイデンティティを持つ天然独』をテーマに、小菅団長が司会、黄氏と九州大学大学院准教授の施光恒氏、西日本台湾学友会元会長の柳原憲一氏の3氏による討論が行なわれた。

講演に先立ち式典が行われ、国旗敬礼、国歌斉唱、「生命の絆」が唱和された。厳粛な雰囲気の中、主催者を代表して慰霊訪問団の小菅団長が挨拶に立ち、出席者、来賓に謝辞を述べた後、台湾特別講演会の目的が「台湾慰霊訪問の旅」への参加者募集にあることを語り、15回目を迎える過程で多くの企業、団体、個人の支援と協力を受けたことに感謝の気持ちを述べた。

次いで来賓を代表して戎義俊・台北駐福岡経済文化辦事處處長が挨拶に立った。福岡着任4年を超える戎處長は、来年定年退職を迎えるため、在任期間を振り返り、福岡・九州に対する愛着心が高まってきたことを感慨深げに語った。



次いで日台関係について、台湾が世界一の親日国家といわれる、その精神的理由として「日本精神」を挙げた。戎處長は、日本精神が現在の日本で忘れかけられていることを残念がり、日本の若者にぜひ新渡戸稲造の「武士道」を読み現代史を紐解き、日本の行為を再認識して欲しいと呼びかけ、「多くの台湾人が日本を訪れるのは、第二の故郷を訪れ、心を癒したいという気持ちからだということを知って欲しい」と強調した。そして最後に日本の中でも一番台湾と真心でつきあってきた団体として慰霊訪問団に謝辞を述べた。

また、台湾から駆けつけた林信一氏に台湾支部事務局長、蔡淑如さんと蔡詠福氏に同事務局員の委嘱状が渡され、林氏と蔡淑如さんが「台湾の声」を読み上げた。

林氏は、15回目を迎えた講演

会が、台湾人と日本人の魂の絆で結ぶ素晴らしい行事だと語り、「支部長として台湾でお待ちし、歓迎させていただきます」と述べた。

かつて九州不動産専門学院勤め、帰国した蔡淑如さんは「小菅団長に真の日台友好とは何かを教えてもらった。台湾人を温かく迎え入れ、外国人にもかわからず皆を尊敬する団長の素晴らしい精神を私たち若者も受け継いでいきたい」と話し満場の拍手を浴びた。

次いで祝電が披露され講演会に移った。

第1部は、文明史家の黄文雄先生が講師を務め、『「一つの中国」の否定とグローバリズムの挫折』と題して講演。第2部では、『強力な台湾アイデンティティを持つ天然独』をテーマに、訪問団の小菅団長が司会を担当、黄文雄、施

光恒、柳原憲一の3氏がパネリストを務め、パネルディスカッションが行なわれた。

その後、講演会実行委員の原田泰宏氏が南京事件を否定する「南

京特別アピール」を読み上げた。講演会終了後、講師の黄文雄氏や戒處長、台湾から参加した台湾支部事務局長の林信一氏、蔡事務局員兄妹、留学生らを囲み、交流会

が開かれ、日台の親善友好を深めるとともに、第19次への慰霊訪問団への参加の気運が大いに盛り上がった。

黄文雄氏の講演内容(概要)は次のとおり。

黄氏はまず慰霊訪問団について感想を述べ、「魂の交流」がいかに大切かを語り、敬意を表した。訪問団の訪台に際し、台湾でテレビの取材を受けた黄氏は「日本人は、3代以前の祖先は共通の祖先としてあがめる。他人の祖先はどうでもよい台湾人とは大違いだ。自分とは関係のない台湾人の慰霊を個人でお金を出して行なっている。このようなことは台湾人も学ぶ必要がある」と話し、大きな反響を呼んだ事を紹介し、本題に入った。



今の中国は自称中国であり、中国の一つではない。中国の核心的利益は人類の普遍的価値とは対立している。

中国が核心的利益と言っている台湾だけでなく、中国にいるウィグル人ら中東の人々も大体台湾と同じ考えではないか。

中国は南シナ海と東シナ海への進出を目指し、南沙諸島も核心的利益などと言っているが、中国は元来陸の民であり、海に進出し、海洋覇権を握るのはそんなに簡単ではない。最低限アラビア海とインド洋を抑えなくてはならない。

尖閣諸島については日本、台湾、中国それぞれの呼称があり、中国が領有権を主張する魚釣島は、日本の主張とは違う。台湾も中国も日本もそれぞれ主張する場所が違う。

ア、中近東の行方はどのようなものか。トランプ大統領は国益優先を唱えているが今ひとつ政策が明確でない。イギリスはEUを離脱、トルコはイスラム諸国に接近するのではないか、情勢は変わりつつある。

2000年以降、著しい成長を遂げたブラジル、中国、インド、ロシアのブリックス諸国は、ブラジルを除き高い成長率を維持している。中国の経済は今、あまり芳しくない。中国経済の変化も世界情勢を見る一つのポイントになる。

日米中台それぞれ違う「一つの中国」の解釈

「一つの中国」については、アメリカも日本も台湾も中国もそれぞれ解釈が違う。アメリカ政府も日本政府も中国が唱える「一つの中国」を認知しているようだが実はそうではない。かつて田中角栄元首相の訪中時に、野党の質問に対し日本政府は、中国が主張している「一つの中国」について「尊重し認識する」と回答した。認知とは微妙にニュアンスが異なる。

台湾でも国民党と民進党の主張は異なる。民進党の蔡英文総統は独自の考えを持っており、「一つの中国」を認めていない。

中国の核心的利益

中国の歴史は既に漢の時代に終わっている。現政権は中華復活を目指しているが成功しなかった。

グローバリズム挫折後の日米と中印露との行方

グローバリズムが挫折した場合、これからの日・米とインドとロシ

日米と台湾の経済、国防関係の変化

蔡総統はハイテク産業に力を入れ、国防も強化。国防技術を開発しながら民生技術に転換したい考えだ。国防技術に関しては日本ではなくアメリカが協力するようだ。日本の国家予算に占める国防支出は世界中の最低の部類に入っている。日本人がいかにして自国を守るかそれがないといけない。

台湾と日本はどう価値観の変化に対応するのか

グローバリズムが挫折した場合、特に中国問題が絡むとどのように世の中が変化していくか。国益と世俗的利益、核心的利益と普遍的価値観の対立が生じる。価値観はこれから変化していくと思われる。台湾と日本はどう価値観の変化に対応するかが問われる。

文化、文明と一元化 V S

多文化化との対立の行方

グローバリズムはいくら否定しても、その対決は文化、文明との対決ではないか。文化は民族を超えることはできない。ユニークなものが文化であり、文明は政治的なものだ。これからの世の中を変えてゆく軸は、民族の対立、国益の対立よりも、国内の文化と文明の対立になっていくのではないか。

日本と中国の違いは「心の違い」にある。普遍的価値と時限的価値の違いだ。中国は変化しているけれども結局、共産主義の左の全体主義から右のファシズムに変化するしかない。

続いて行われた第2部では小菅団長が進行役を務め、パネラーの黄文雄、施光恒、柳原憲一の3氏が登場、「強力な台湾アイデンティティを持つ天然独一私たちの代で作ろう、世界の羨む二国間関係を」をテーマに、パネルディスカッションが行なわれた。

黄氏は「台湾の大地を愛するネ

ット世代・天然独」について、施氏は「台湾の歴史に理解を深め、しっかり応援を」と語り、柳原氏は「日台は家族同様、日本版の台湾関係法を」と語った。

小菅団長は台湾が国づくりのモデルにする明治・日本は、勇気ある下級武士団によって成し遂げられた。21世紀の今日、台湾は国づくりの先端を行っているのではないかと述べ、総括として「認識日本」、台湾人がモデルにする日本はどのようにして作られたのか、原台湾人元日本兵戦没者の慰霊に行く、勇気を持つことの3点を強調した。

「世界に誇れる日台2国間関係をどのようにしたら作れるのか、今日の講演会の宿題にして出席者がそれぞれの持ち場で考え、実践してもらえればありがたい」と締めくくった。

講演会終了後、午後5時過ぎから同会場で、講師の黄文雄氏や台湾から参加した台湾支部事務局長の林信一氏、蔡兄妹事務局員、留

学生らを囲み交流会が開かれた。

開会に先立ち寺田蝶美さんによる筑前琵琶演奏「嗚呼壮烈岩屋城」が力強く奏でられ、戦いに散った多くの武将を偲び、大東亜戦争で散華した原台湾人兵士たちに思いを馳せた。

訪問団の大山猛氏が開会のことを述べたあと来賓として鬼木誠衆議院議員が挨拶に立ち、「戦後の教育の中で日本国の本質がわからなくなっている。台湾に残る日本精神の中から新たに学ばなければならない」と述べ、日台の絆の一層の深化と親善友好のさらなる発展を祈念した。上野和彦・九栄会副会長による乾杯の音頭で歓談に移った。出席者は台湾への熱い思いを語り合い、日台友好の輪が広がった。学院講師の山口勝彦氏が慰霊訪問団の更なる隆盛と日台友好の深化を願い博多手一本で締め、慰霊訪問団の顧問でもある横尾秋洋筑紫野市議会議長が閉会のことを述べ閉会となった。



50年に及び日本統治が半世紀以上経った今日に至るまで、脈々と生き続ける台湾。
この「^{いのち}生命の絆」を守り育て後に続く人に正しく継承していくことが、先達から託された私たち世代の崇高な使命です。

日台の魂の交流 明治維新150年 第16回 台湾特別講演会

第1部 基調講演

黄 文雄 先生

明治維新の精神～領台50年 と戦後70年の台湾の歩み

— 台湾の改革維新にどうつなげるか —

第2部

パネルディスカッション

明治日本の拡散 ～私たちの学ぶべきこと

— 今に生きる明治維新・大日本帝國の精神 —



こう ぶん ゆう
黄 文雄 先生
(文明史家／
和漢兩棲ノンフィクション作家)

【略歴】昭和13年(1938)台湾高雄岡山鎮生まれ。
昭和36年(1961)来日。昭和44年(1969)早稲田大
学商学部卒業。昭和46年(1971)明治大学大学院、政
治経済学研究科西洋経済史学修士。
平成29年3月まで、拓殖大学日本文化研究所客員教授。



せ てる ひさ
施 光恒 先生
(九州大学大学院准教授)

【略歴】昭和46年(1971)福岡県生まれ。平成元年
(1989)福岡県立修猷館高等学校卒業。平成5年
(1993)慶應義塾大学法学部卒業。同13年(2001)慶
應義塾大学大学院法学研究科博士課程修了。現在、九
州大学大学院比較社会文化研究院准教授。



やなぎはら けん いち
柳原 憲一 先生
(西日本台湾学友会元会長)

【略歴】昭和32年(1957)台湾彰化県和美鎮生まれ。
昭和59年(1984)来日。平成5年(1993)九州大学医
学部卒業。九州大学医学部附属病院医員。
現在、医療法人柳原皮膚科クリニック理事長。台湾平
埔族研究家。

■日時：平成30年**6月10日(日)** 開場12:30 開会13:00

■会場：ソラリア西鉄ホテル 8階「彩雲」 福岡県福岡市中央区天神2丁目2-43
TEL(092)752-5555

講演会/13:00~17:00

会費：1,000円

定員：300名

戎義俊総領事 感謝の夕べ・交流会/17:15~19:00

会費：5,000円(要予約)

定員：150名(全席円卓着席)

講演会終了後に戎義俊総領事の送別会、講師の
先生を囲んで交流会を和やかに催します

〈振込先〉

●福岡銀行 県庁内支店
普通預金 1007307
日華(台)親善友好慰霊訪問団
●ゆうちょ銀行 記号01750-1
番 号 144572
日華(台)親善友好慰霊訪問団

主催：日華(台)親善友好慰霊訪問団(平成11年結成)

〒810-0001 福岡市中央区天神1-3-38 天神121ビル13階 TEL092-721-0101 担当 原田・池田

■特別協賛：台北駐福岡経済文化辦事處/九州不動産専門学院/九栄会/山口県日台交流協会/松俵建設/関家具/中部鋼材/エース・コーポレーショ
ン/浜崎理想互製造所/台湾新亜旅行社

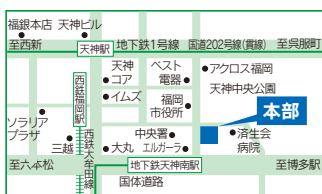
■協 賛：福岡教育連盟/美祿市観光商工部/HAS/国際不動産鑑定所/悠悠/大道印刷/栄電舎/柳原皮膚科クリニック/中野建築事務所

■後 援：産経新聞九州総局/オイスカ西日本研修センター/福岡市議会/日台友好議員連盟/日台友好筑紫野市議会議員連盟/日本会議地方
議員連盟/日本会議福岡/台湾在日福岡留学生会/福岡縣神社廳/福岡縣護國神社/英霊にこたえる会福岡県本部/福岡県海友会/
福岡県郷友連盟/水交会福岡支部/海原会/甲飛喇叭隊第11分隊/大野城市国際交流協会/福岡県中華總會/九州台日文化交流協
会/日台交流をすすめる会/山口県日台文化経済交流会/福岡県モロロジー協議会/日本協議会福岡県支部/日本青年協議会/教育
研究会未来/スタジオ日本日曜討論(番組を支える会/日本人講座)/日本時事評論社/エバー航空/紅乙女酒造/フクニチ住宅新
聞社/東海新報社/岩屋城史の会/八重山日報社/西日本ベアリング販売協会

■現地協力：台中・寶覺寺 高雄・保安堂 屏東・東龍宮 恆春・潮音寺 台南・海尾朝皇宮 台南・飛虎將軍廟 嘉義・富安宮 新竹・勸化堂
新竹・濟化宮 樹林・海明禪寺 新北・烏來高砂義勇隊紀念協會 台南・嘉南農田水利協會(烏山頭水庫・八田與一紀念館・八田
與一紀念公園) 高雄・臺灣前國軍退役軍人暨遺族協會<慰靈祭主催団体> 台中・台灣台日海交會<交流団体> 台北・台日文化
經濟協會會 台中・台灣海軍ラバウル會 台南・奇美基金會(奇美博物館) 台南・鹽水國民小學<公的機関> 台北・中華民國總
統府 台北・中華民國外交部 高雄・高雄市政府 台中・臺中市政府 台南・臺南市政府 台北・國民革命忠烈祠

■企画運営：第16回台湾特別講演会実行委員会

(注：法人組織名は割愛させていただきました)



日華(台)親善友好慰霊訪問団

本部 福岡市中央区天神1-3-38
TEL(092)721-0101
FAX(092)725-3190

東京支部 (支部長: 沼田真清)
 東京都港区北青山2-7-18
 第1真砂ビル5階
 (株)エース・コーポレーション気付
TEL(07)751-4906

沖縄支部 (支部長: 富原 浩)
 沖縄市室川2-6-7
 (株)中部鋼材気付
TEL(098)938-1318

台湾支部 (支部長: 黄明山)
 高雄市鳳山區南正一路
 2巷11弄5號
TEL(07)751-4906

台湾支部事務局
 台北市信義區信義路五段5號
 台北世界貿易中心5樓D-26室
 日本美禰市台北觀光・交流事務所気付
TEL(09)7845-8470

URL **nippon-taiwan.org**

Eメール **taiwan@l-mate.net**

